

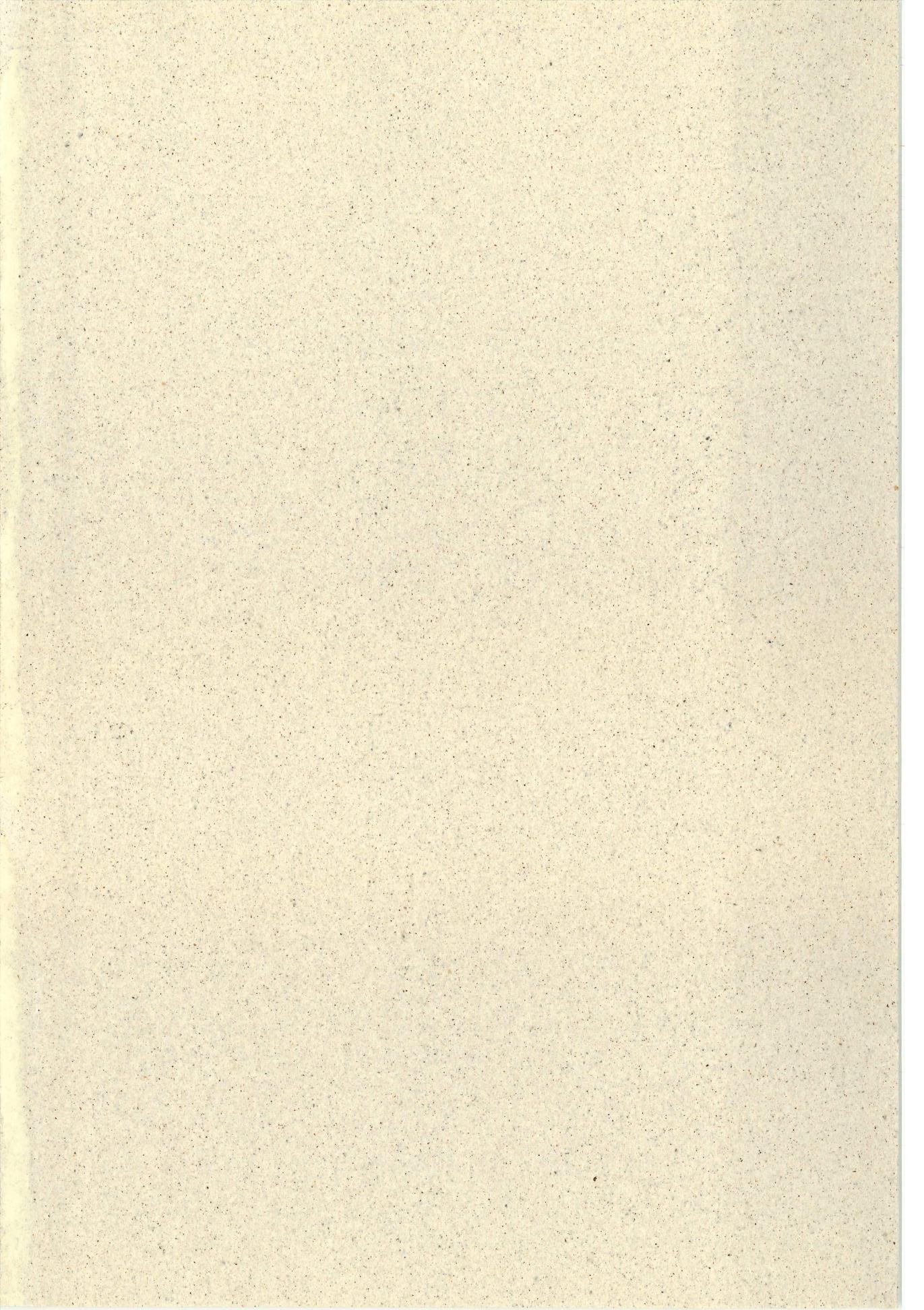
奈良地区遺跡群

(奈良田向遺跡)

土地改良総合整備事業奈良地区に
係る埋蔵文化財発掘調査の概要

1990

沼田市教育委員会



奈良地区遺跡群

(奈良田向遺跡)

土地改良総合整備事業奈良地区に
係る埋蔵文化財発掘調査の概要

1990

沼田市教育委員会

序 文

ここ数年における沼田市は、各地区における大規模な土地改良事業をはじめ工業団地の造成、国道17号バイパスの建設計画等により大きく変貌しつつあります。これら大規模な事業区内には遺跡（埋蔵文化財）が存在することも多く、関係機関の協力を得て破壊される前に発掘調査が実施され、記録保存されるようになってまいりました。しかし、公的遺産である埋蔵文化財の多くは、日々消滅の危機にさらされてその保護対策が急務となっています。

今回の発掘調査は、昭和63年度に実施された土地改良総合整備事業奈良地区に伴う事前調査であります。付近には、市指定文化財の奈良古墳群が存在して、注目度の高い地区でありました。この成果は奈良地区においてはもちろんのこと、沼田市においても古代史解明の重要な資料となることでしょう。

最後になりましたが、本調査実施にあたり終始御指導・御協力をいただきました関係者の皆様に心から厚く感謝の意を表し序文といたします。

平成2年3月

沼田市教育委員会

教育長 佐藤国利

例　　言

- 1 本報告書は、土地改良総合整備事業奈良地区に係る埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 「奈良田向遺跡」は、群馬県沼田市奈良町字田向287番地外に所在する。
- 3 発掘調査は、A区が昭和63年8月25日～10月22日まで、B区が昭和63年11月17日～12月9日まで実施し、整理作業は平成2年3月まで行った。
- 4 発掘調査及び整理作業は、沼田市教育委員会が文化庁の補助事業として、また農政関連の委託金を受けて実施したものである。
- 5 調査及び整理体制は以下の通りである。

昭和63年度

教　育　長	佐藤　国利
教育次長	松井　誠二
社会教育課長	藤井　正久
社会教育係長	斎藤　一章
社会教育主事	小池　雅典（担当）
嘱託調査員	宮下　昌文（担当）

平成元年度

教　育　長	佐藤　国利
教育次長	松井　誠二
社会教育課長	藤井　章二
文化財保護主事	都丸　肇
社会教育主事	小池　雅典（担当）
主事	宮下　昌文

- 6 本書の執筆・編集は小池　雅典が行った。
- 7 本遺跡の資料は、沼田市教育委員会が沼田市文化財調査事務所収蔵庫で保管している。
- 8 発掘調査及び本書の作成において次の方々から御指導・御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

群馬県教育委員会文化財保護課、奈良土地改良組合、沼田市経済部農政課、青木　一好

凡　　例

- 1 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1「沼田」「後閑」を使用した。
- 2 第2図は、沼田市発行の2千5百分の1「都市計画図3」を使用した。
- 3 グリットの名称は北東ポイント名を使用した。
- 4 図中の方位は、磁北を表す。
- 5 図中に記載した断面基準線の数字は海拔高である。
- 6 遺構図・遺物図は、基本的にはそれぞれ以下のように統一したが、遺物で縮尺が異なる場合は表示した。

全体図1/400　　住居址1/60　　炉・カマド1/30　　遺物1/3

目 次

序 文

例 言

凡 例

I 調査に至る経緯と遺跡の環境 2

1 調査に至る経緯 2

2 遺跡の位置と環境 2

3 周辺の遺跡 2

II 調査の方法と遺跡の概要 7

1 調査の方法 7

2 遺跡の概要 7

3 基本層序 7

III 検出された遺構と遺物 8

〔弥生時代〕 8

〔平安時代〕 15

IV まとめ 34

遺物観察表 35

写真図版

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1 調査に至る経緯

昭和62年度から開始された土地改良総合整備事業奈良地区には、分布調査の結果から第2年次の昭和63年度工区の一部（田向地区）において埋蔵文化財の存在が予想された。このため教育委員会は、農政課の協力を得て昭和62年度末に遺跡の破壊が想定される道水路建設地について試掘調査を実施した。その結果2か所において竪穴式住居址状の落ち込みが確認され、出土遺物から弥生時代後期の住居址と判断された。当該地が遺跡地であると確認されたことから、その保存のために農政課と工事変更等について協議を行ってきましたが、さらに掘削地区も追加される事となりやむなく発掘調査を実施して記録保存することで合意がされた。

2 遺跡の位置と環境

奈良地区遺跡群は、沼田市の中央部やや東側に所在する。この地区は、南流する発知川の左段丘面で、西側には低い丘陵がせまる幅の狭い平坦地である。「奈良田向遺跡」は、発知川下流の上位段丘面に位置し、川からの距離250m、比高差は30mを測る。調査前の現況は畠地であった。

3 周辺の遺跡

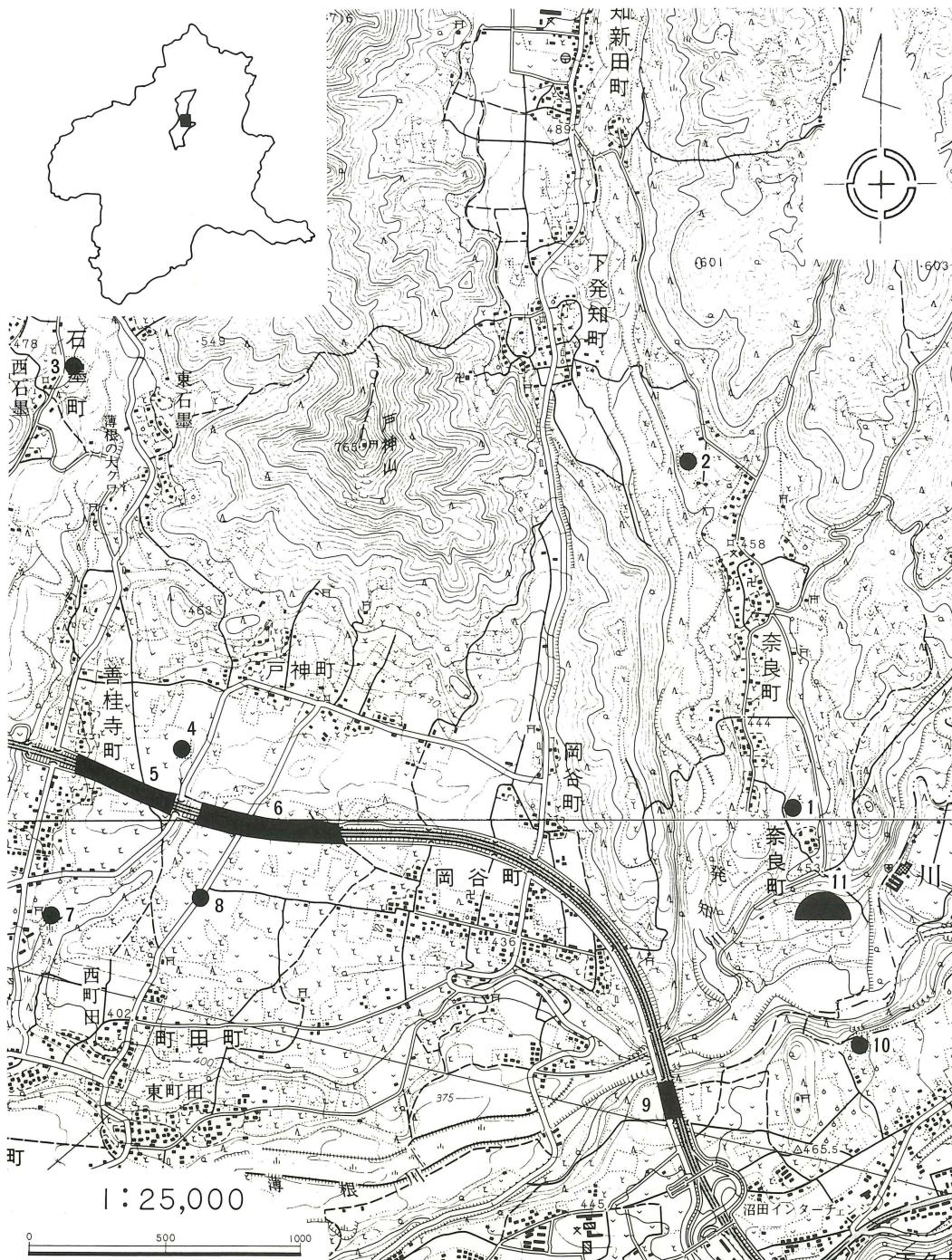
旧石器時代の遺物が確認されているのは周辺地では少なく、戸神諏訪遺跡(6)からナイフ等が出土しているのみである。

縄文時代になると遺跡数も多くなり各地で遺物が確認されるようになる。寺入遺跡(3)からは、中期を中心とした住居址等が多量の遺物とともに検出されており、石墨遺跡(5)戸神諏訪遺跡からも住居址や落し穴が確認されている。

弥生時代になると一時、遺跡は確認されなくなるが、後期の後半になると各地で集落址が検出されるようになる。奈良地区では奈良原遺跡(2)その他の地区でも前述した戸神諏訪遺跡・石墨遺跡をはじめ鎌倉遺跡(9)戸神吉田遺跡(4)町田小沢遺跡(7)等を挙げることができる。

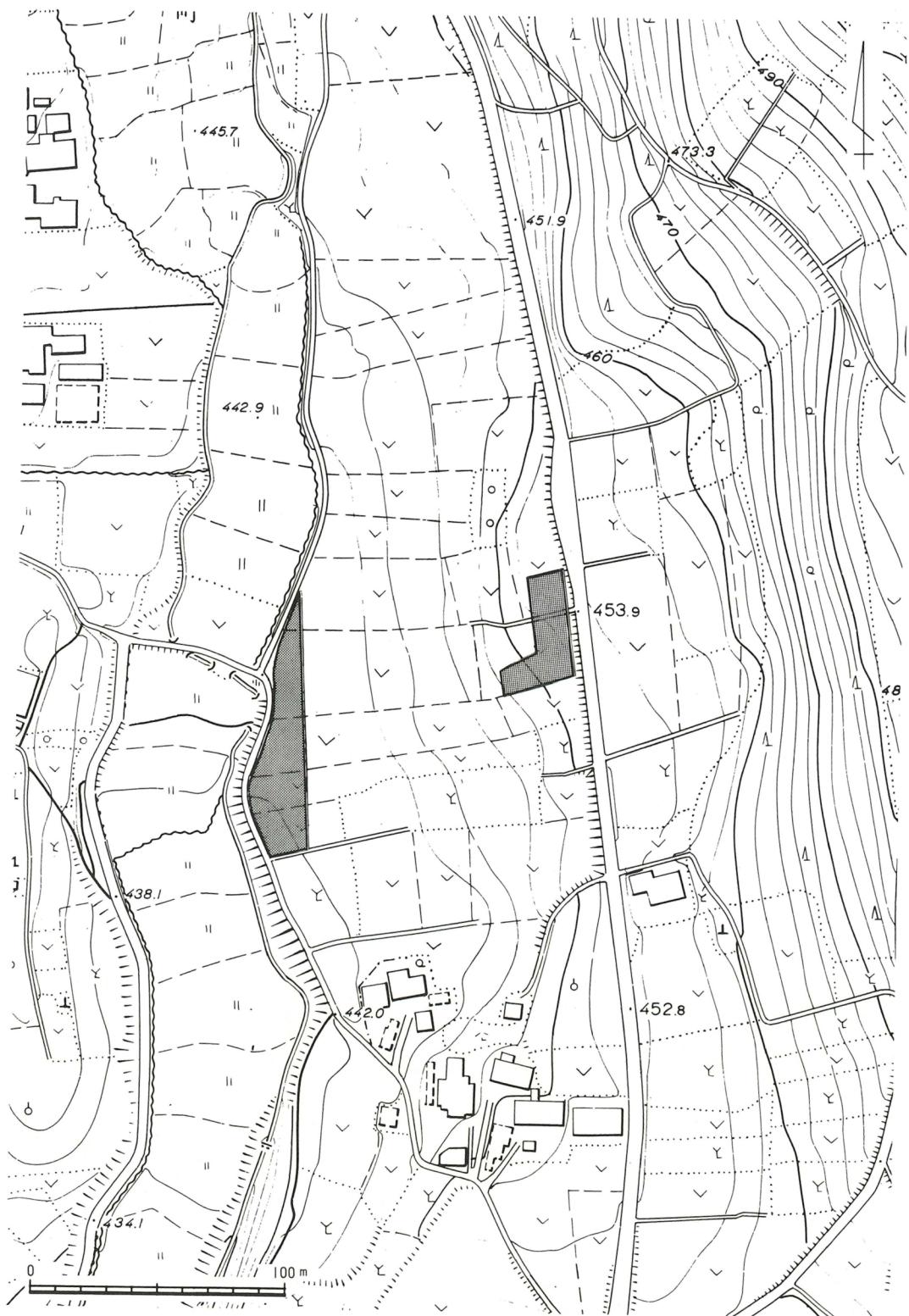
古墳時代は、前期には前時代の遺跡と重複していることが多いが減少傾向にある。戸神諏訪遺跡・石墨遺跡・清水遺跡(10)が代表例である。後期の住居址は石墨遺跡から検出されているが、周辺遺跡からは検出されていない。古墳は、ほとんど後期に属し山裾に築造されることが多い。奈良古墳群(11)は現在でも多くの古墳が残っており貴重な存在である。

奈良時代の遺跡は周辺地では少なく、平安時代に入り増大する傾向が認められる。戸神諏訪遺跡・石墨遺跡・土塔原遺跡(8)・町田小沢遺跡から集落址が検出されている。



第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 奈良田向遺跡 | 2. 奈良原遺跡 | 3. 寺入遺跡 | 4. 戸神吉田遺跡 |
| 5. 石墨遺跡 | 6. 戸神諏訪遺跡 | 7. 町田小沢遺跡 | 8. 土塔原遺跡 |
| 9. 鎌倉遺跡 | 10. 清水遺跡 | 11. 奈良古墳群 | |



第2図 調査地と周辺の地形



第3図 奈良田向遺跡全体図

II 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

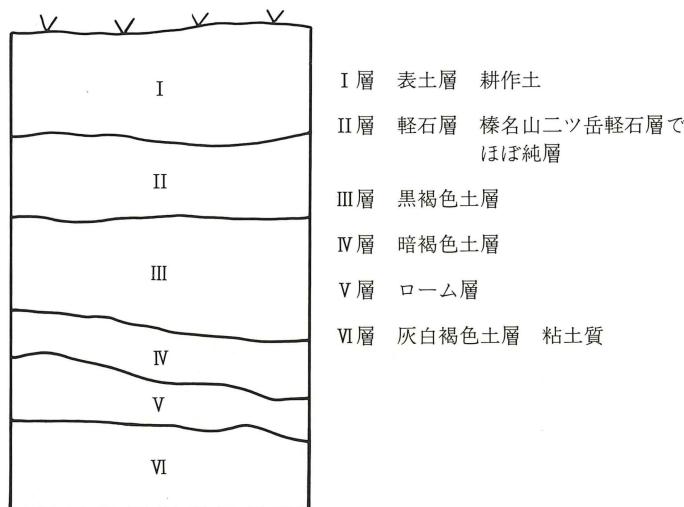
農政課との協議の結果、道水路建設予定地及び大幅掘削部分で遺構の確認された部分を調査対象地とした。重機により、すでに試掘調査で把握していた遺構の確認面まで掘り下げて調査を実施した。本遺跡は時代の異なる遺構が同一面で確認できたことから、調査区域の方向に合せ1辺5mグリッドを設定し、遺物・遺構の作図を行った。図面は、遺構の大きさにより1/10、1/20のいずれかを適宜選択した。全体図は、1/100で20cmのコンタを入れて作成した。

2 遺跡の概要

本遺跡は2地区を発掘調査した。A地区においては、弥生時代後期後半の住居址1軒と平安時代の住居址11軒が、B地区からは弥生時代後期後半の住居址2軒と平安時代の住居址2軒その他各地区から時期不明の溝・土壙が検出された。また、遺構は確認できなかったが、縄文時代前期や古墳時代前期の資料も少量検出された。

3 基本層序

本遺跡は、2地区を調査しているが、比較的土層の安定しているA地区の北東部分を基本の層序とした。



第4図 基本層序

III 検出された遺構と遺物

[弥生時代]

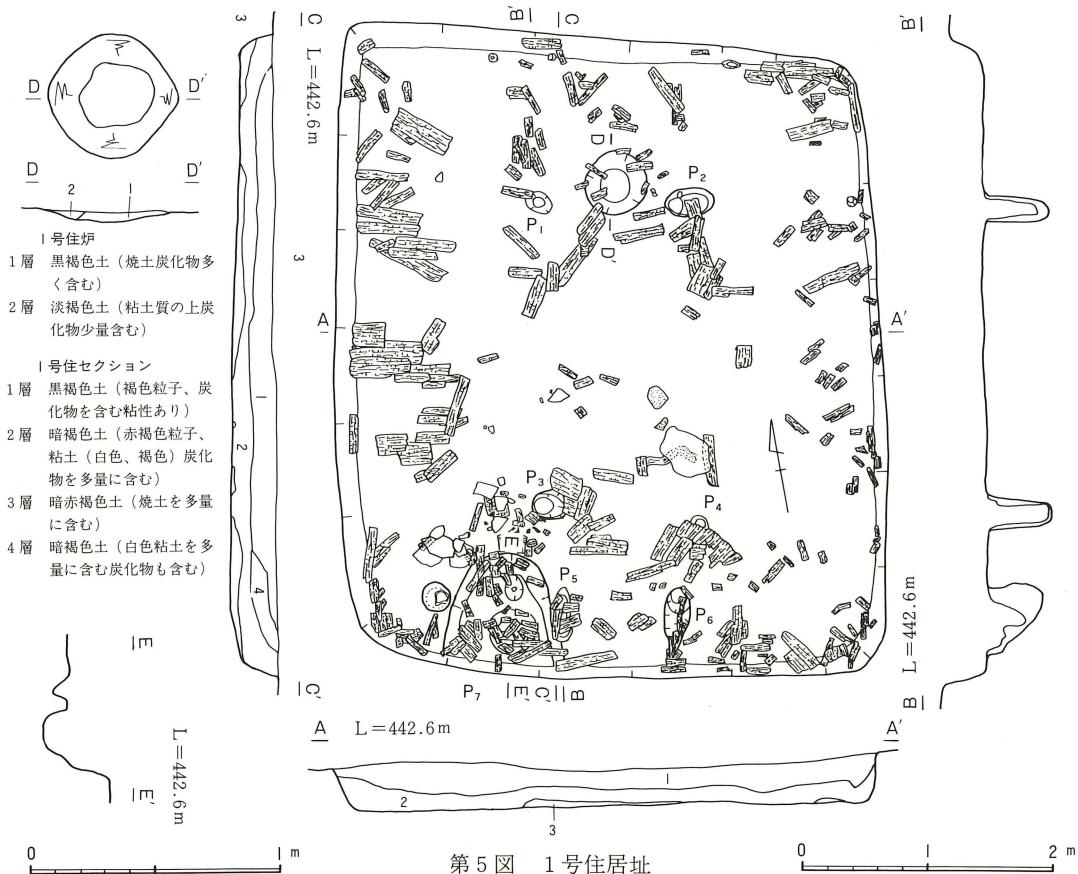
1号住居址（第5図）

A地区F-6グリットに位置する。主軸をほぼ南北にとった長方形プランを呈し、南北5.07m東西4.40mを測る。確認面からの深さは南北壁側で34cmである。焼失住居で壁面床面とも非常に良く焼けており、多量の炭化材や焼土が確認された。P₁～P₄が主柱穴で、炉は北側主柱穴間のやや外側に位置する。炉の位置と反対側の壁際には入口施設用の柱穴P₅・P₆が配置され、その西側には周囲に高まりを持った貯蔵穴P₇がある。

出土遺物は比較的少ないが、貯蔵穴西側から床直の壺、覆土中から大型壺の破片が検出されている。

13号住居址（第6図）

B地区Z-7・8グリットを中心に位置する。主軸をほぼ北西から南東にとった長方形プラン



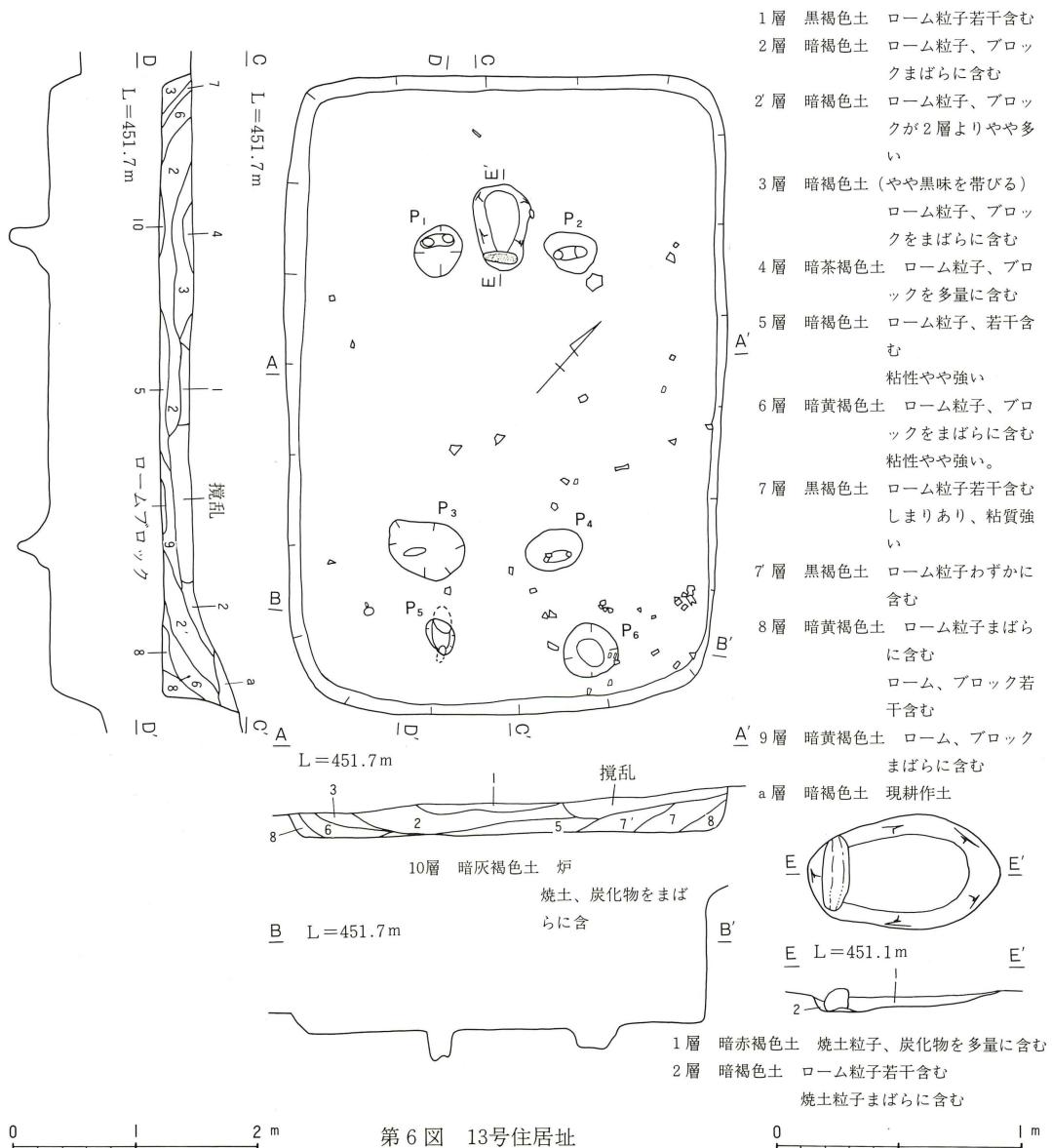
第5図 1号住居址

を持ち、長軸5.18m短軸3.61mを測る。確認面からの深さは東北壁中央部で35cmである。P₁～P₄が主柱穴で、炉は北側主柱穴間から外側にかけて位置し、南縁に炉石を有する。P₅は他の同時期の住居址例から入口施設の柱穴と判断されるが、対になる東側の柱穴については明確にできなかつた。P₆は貯蔵穴である。

出土遺物は比較的少ないが、小型台付甕が検出されている。

16号住居址（第10図）

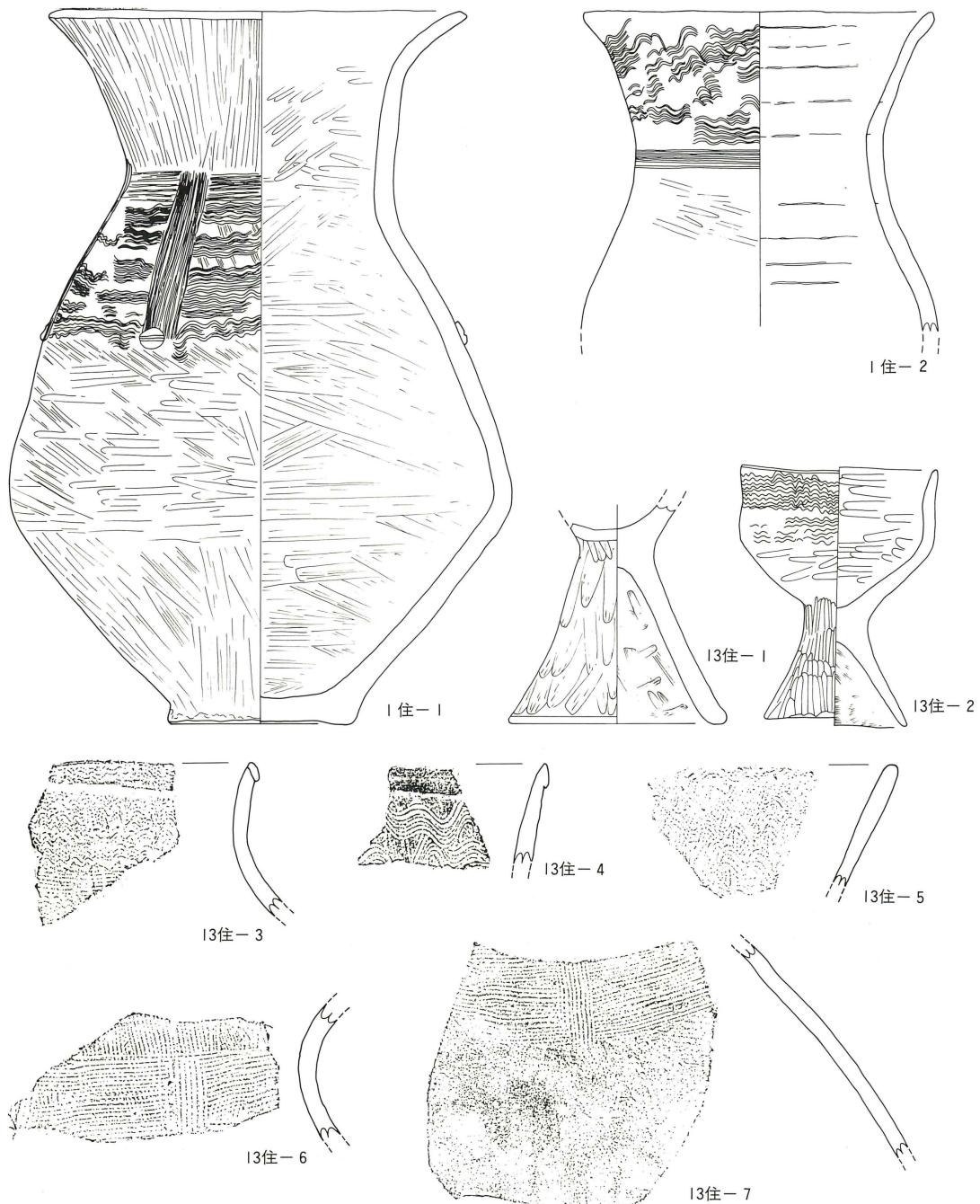
B地区X-4・5、Y-4・5グリットに位置する。主軸をほぼ南北にとった長方形プランを持ち、南北8.62m東西6.58mを測る。確認面からの深さは東壁側で86cmである。覆土上層には、



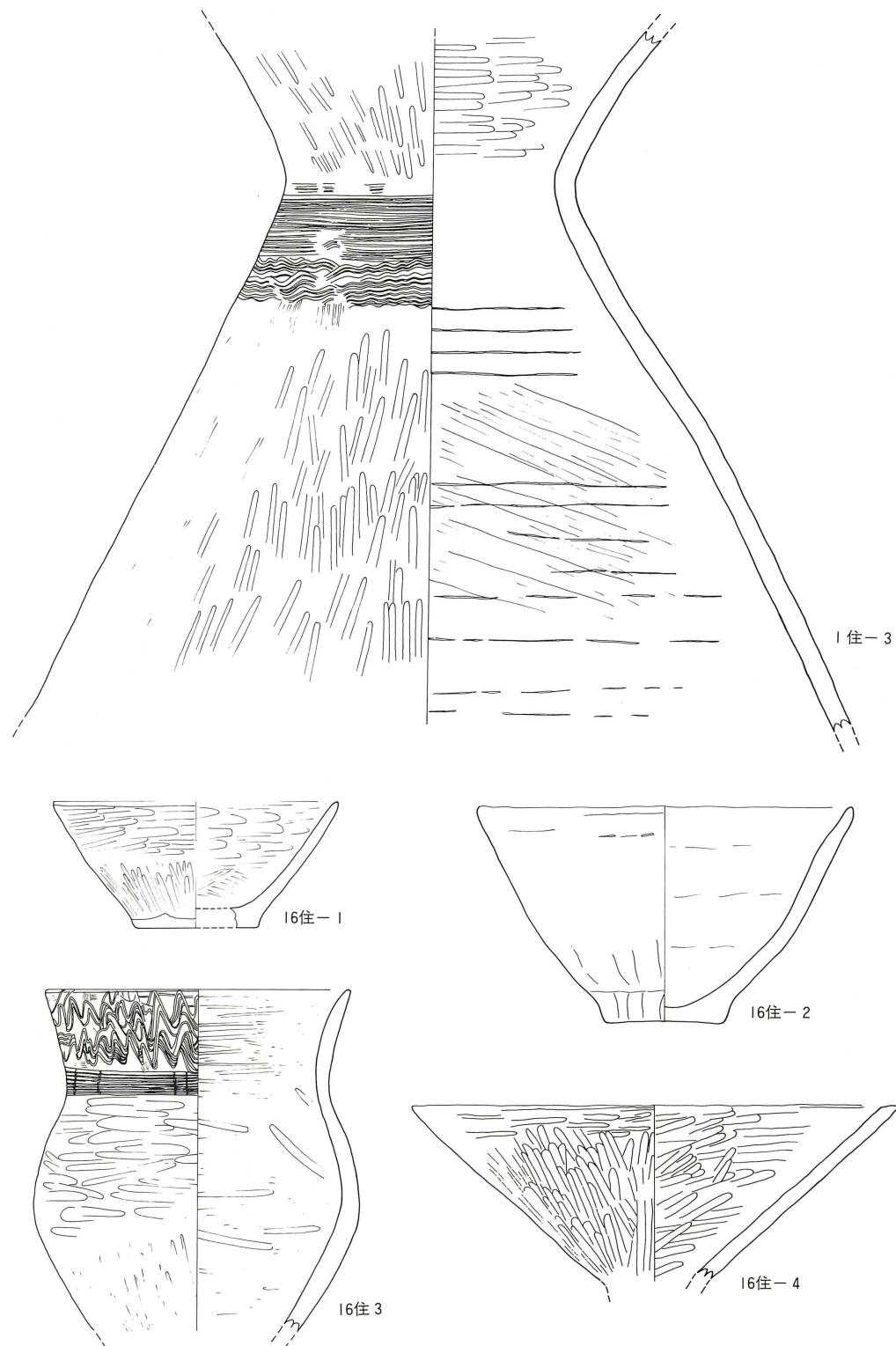
第6図 13号住居址

榛名山から噴出したF P・F Aの軽石及び火山灰の堆積が認められた。P₁～P₄が主柱穴で、炉は北側主柱穴間に1基と南側主柱穴の西側に1基検出された。前者は中央部に炉石を有する。入口施設用の柱穴P₇ P₈は、南壁寄り中央に配置される。

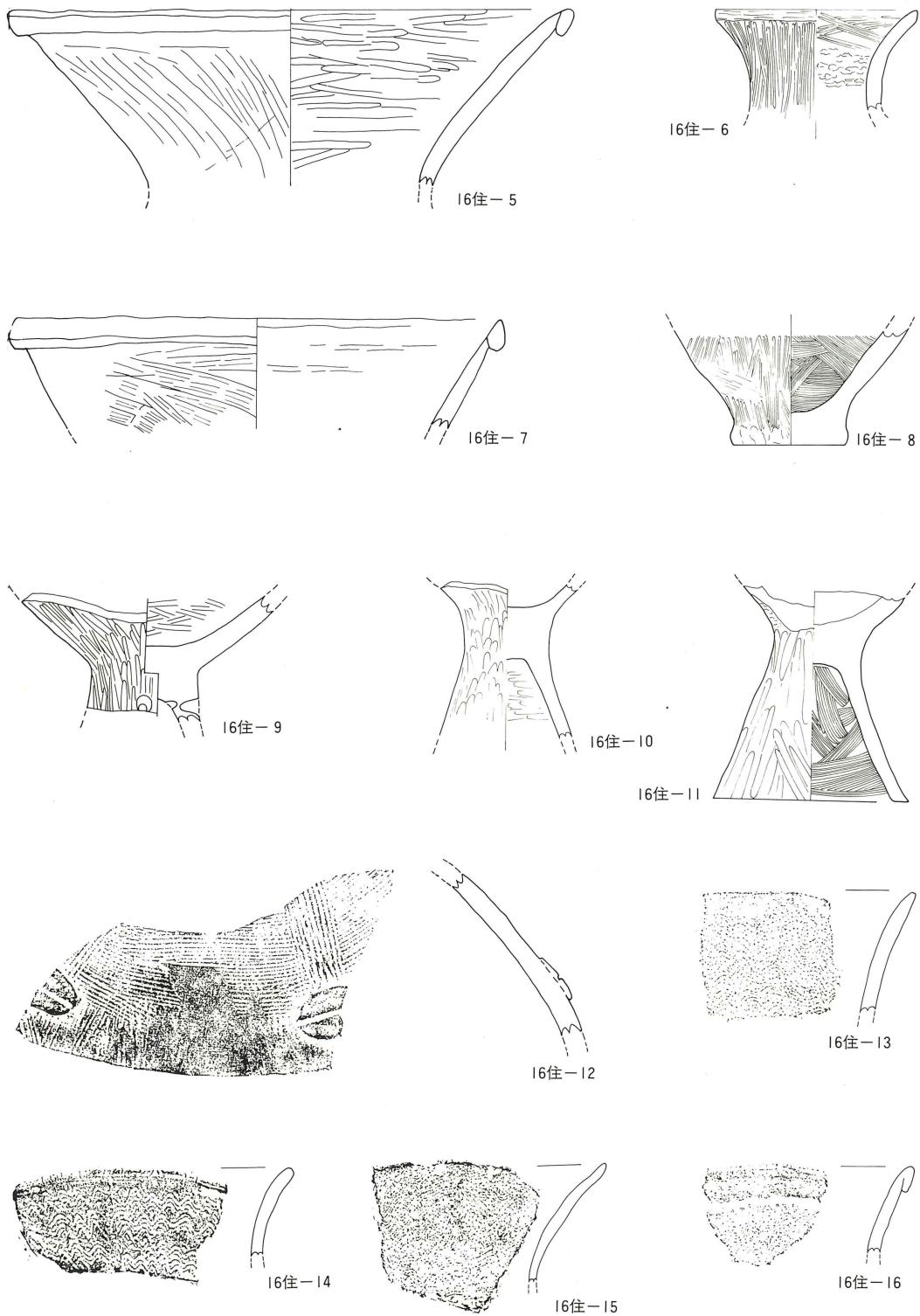
出土遺物は、覆土中から多く検出されているが小型甕と鉢の他は小片の土器がほとんどである。



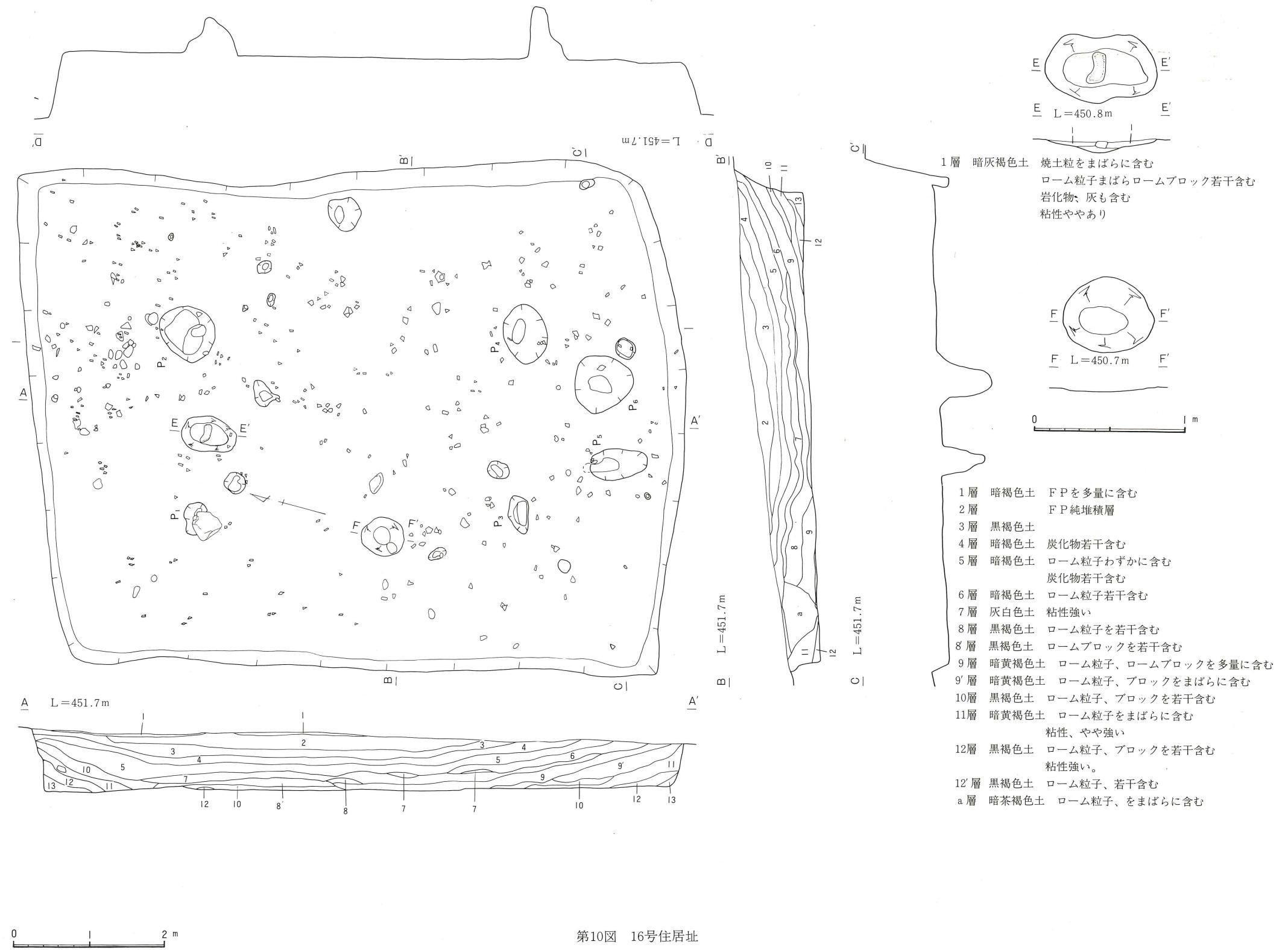
第7図 1・13号住居址出土遺物



第8図 1・16号住居址出土遺物



第9図 16号住居址出土遺物



第10図 16号住居址

[平安時代]

2号住居址（第11図）

A地区D・E-9グリットに位置する。東壁中央やや南寄りにカマドを持った長方形プランの住居址で、南北3.90m東西3.29m、確認面からの深さは東壁側で28cmを測る。壁際には浅い壁溝が確認された。柱穴は確認できなかったが、南東隅に浅い貯蔵穴が検出された。カマドは石で補強しており袖石も良好な状態で残存していた。

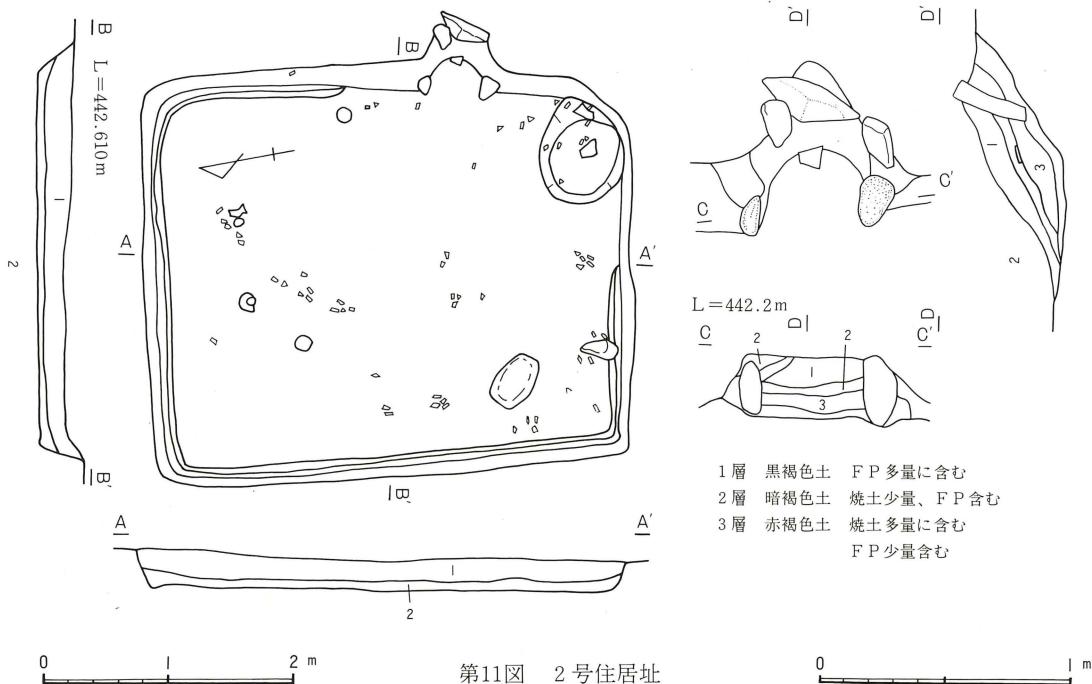
出土遺物は比較的少なかったが、北側から壺・塊4点とフイゴの羽口片を検出した。

3号住居址（第13図）

A地区E-10グリットに位置する。東壁中央やや南寄りにカマドを持った長方形プランの住居址で、南北3.92m東西3.25mを測る。確認面からの深さは東壁側で55cmで、壁際には浅い壁溝が確認された。柱穴は東及び西壁に沿ってそれぞれ3本、2本の計5本が住居址内から検出された。

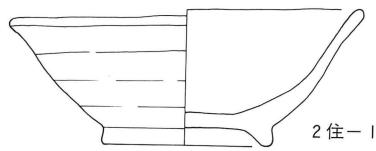
カマドの周辺には多量の粘土が認められ、袖石を設置したと想定される浅いピットが検出されたことから、石を使用したカマドであったと考えられる。

出土遺物は比較的多く、特にカマド周辺に集中して検出された。器種は壺類が多く、甕の破片や刀子、覆土上層からは石製紡錘車が出土している。

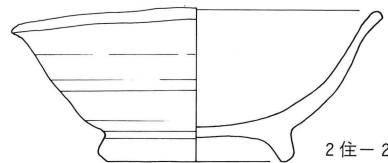


第11図 2号住居址

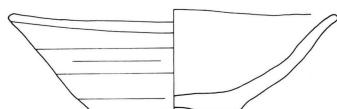
- 1層 黒褐色土（軽石多く含む、炭化物少量含む）
 2層 暗褐色土（軽石多く含む褐色土を少量含む炭化物を1層より多く含む）
 (黒褐色土)



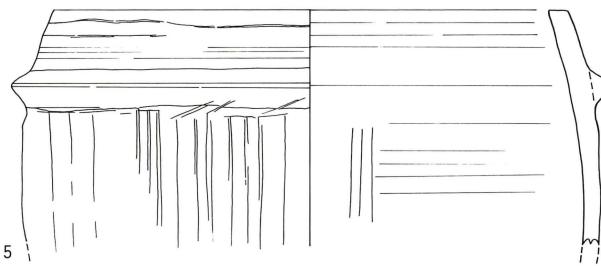
2住-1



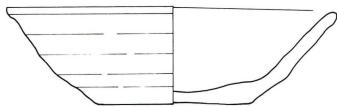
2住-2



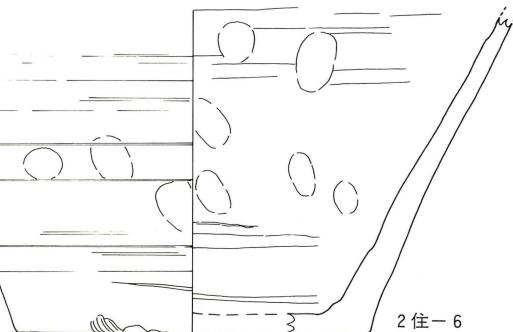
2住-3



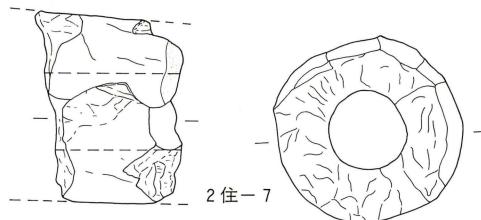
2住-5



2住-4

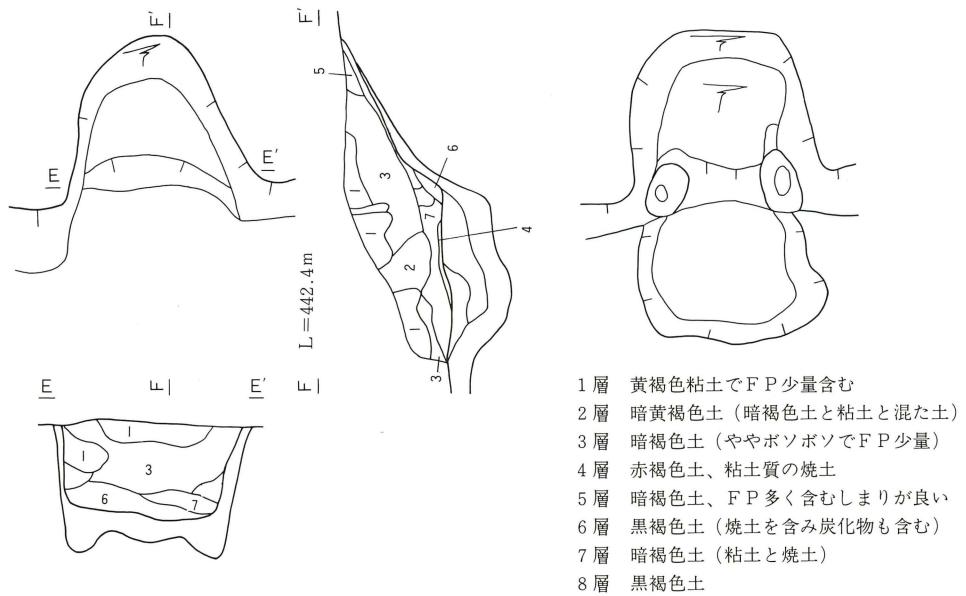
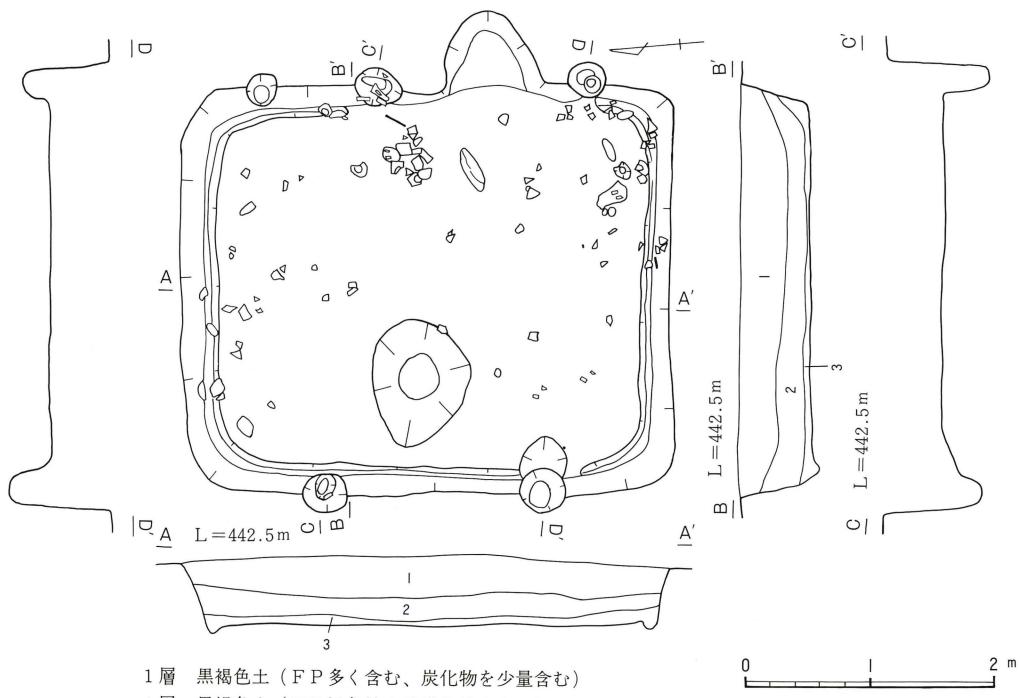


2住-6



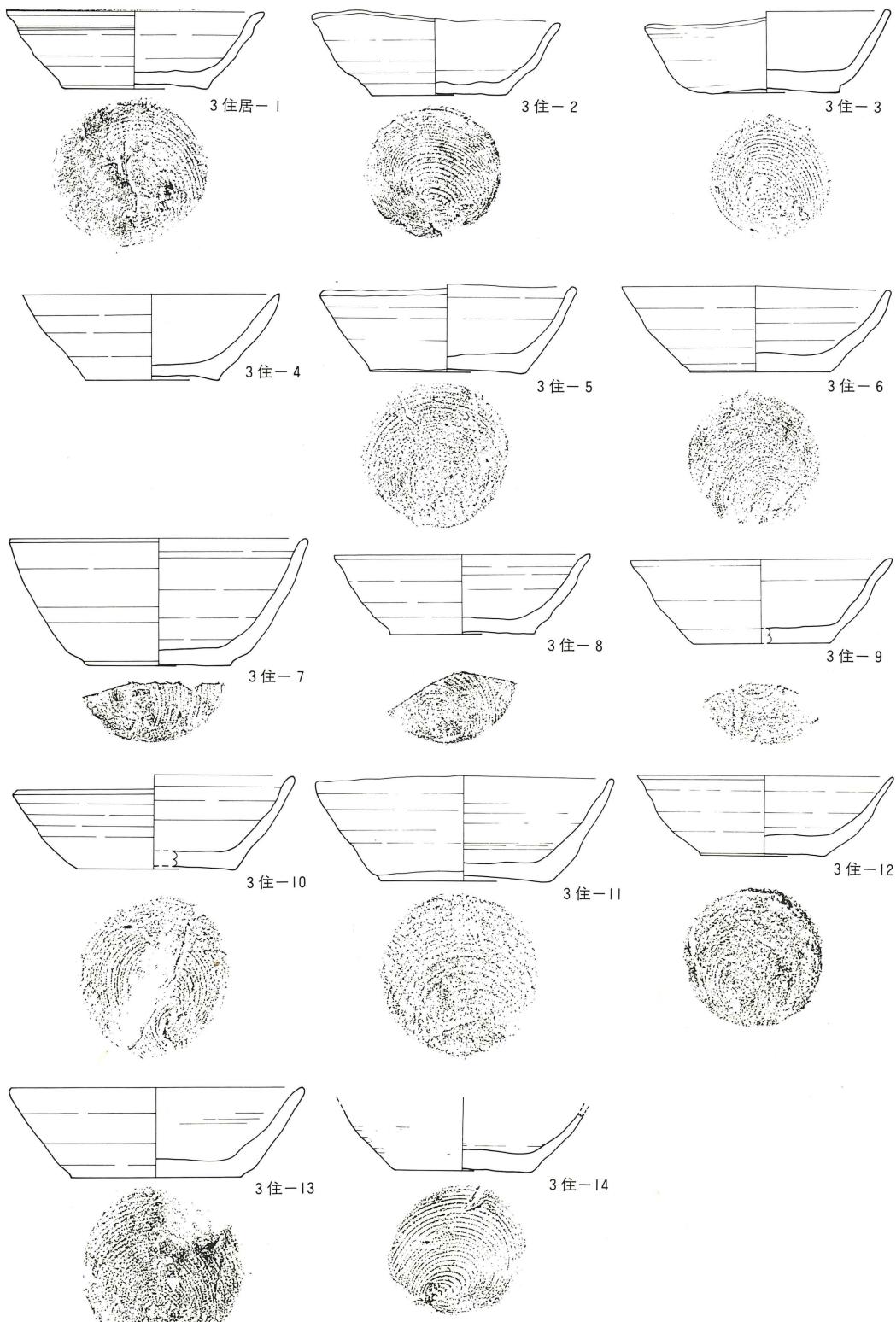
2住-7

第12図 2号住居出土遺物

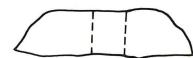
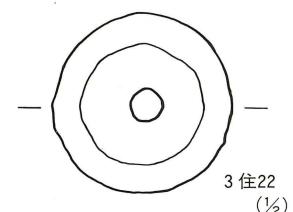
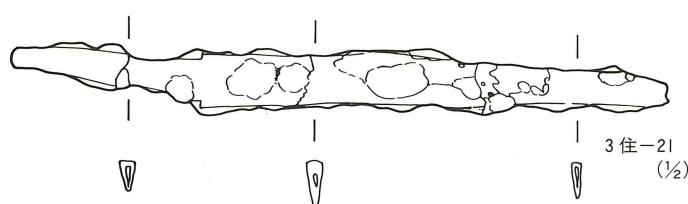
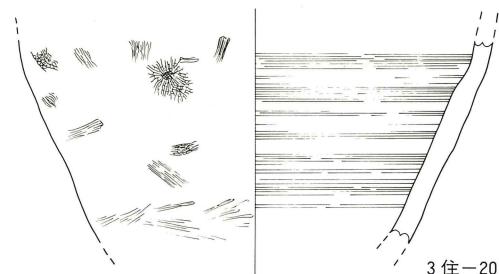
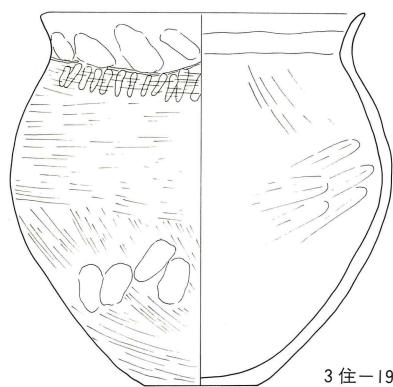
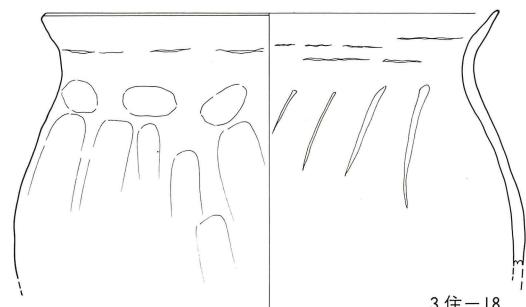
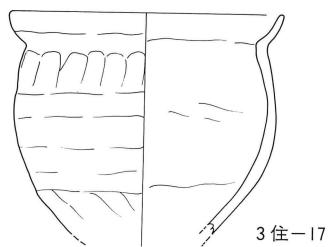
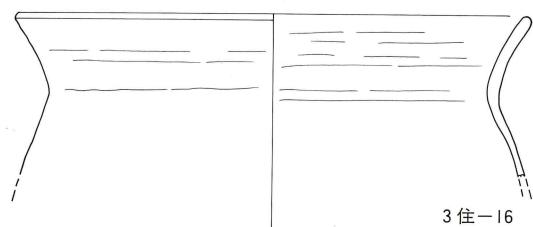
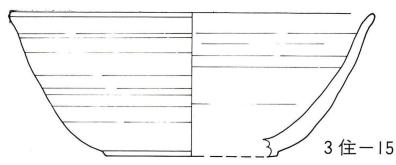


第13図 3号住居址





第14図 3号住居址出土遺物 (1)



第15図 3号住居址出土遺物 (2)

4号住居址（第16図）

A地区D-13グリットに位置する。カマドを有しない長方形プランの住居址で、南北3.85m東西2.92m深さは北壁側で20cmを測る。柱穴は検出されなかった。

出土遺物は僅かであった。

5号住居址（第16図）

A地区C-14・15、D-14・15グリットに位置し、北側が4号住居址と重複する。4号住居址と同様にカマドを有しない隅丸長方形プランの住居址で、南北5.04m東西4.55m確認面からの深さは南壁側で15cmを測る。柱穴は検出されなかったが、南側から土壙2基が発見された。

出土遺物は少なかったが南側に集中して認められた。

6号住居址（第17・18図）

A地区A-15・16、B-15・16グリットに位置する。南側にカマドを3基持った方形プランの住居址で、南北6.68m東西5.89mを測る。確認面からの深さは北壁側で19cmで南壁側を除いて浅い壁溝が巡る。覆土上層には浅間のB軽石がレンズ状堆積で認められた。柱穴はP₁・P₂が確認されたが他には柱穴状の明瞭な掘り込みは検出されなかった。しかし、P₁からは西側に延びた浅い間仕切状の溝が確認された。

カマドは東辺南隅と南辺東側、南西コーナー部で検出された。いずれも石を使用したカマドであったと想定されカマド付近には多くの焼石が検出された。住居南側には6基の土壙が確認され、その北側には焼土の広がりが検出された。A土壙はその覆土中層に炭化物層が認められ、北側の緩やかな立ち上がりの底面端部は強く火を受けて焼土化していた。

出土遺物は石が大多数であったが、刀子の破片も1点出土している。

7号住居址（第20図）

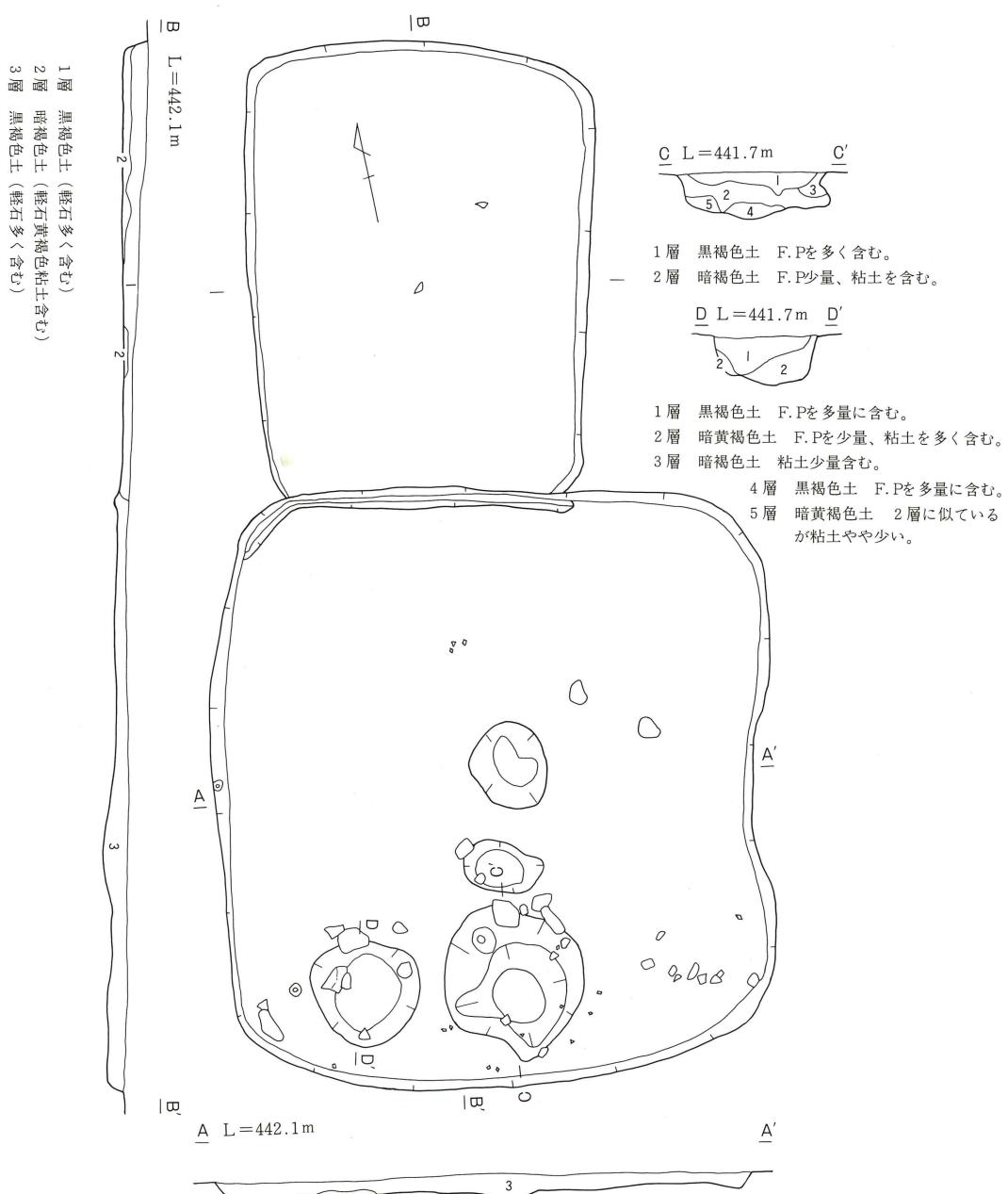
A地区C-16・17グリットに位置する。カマドを有しない長方形プランの住居址で、南北3.99m東西5.26mを測る。北西側は6号住と重複する。確認面からの深さは北壁側で19cmを測る。住居址中央部から西側にかけて床面上に炭化物が多く検出された。

出土遺物は石が少量出土したのみである。

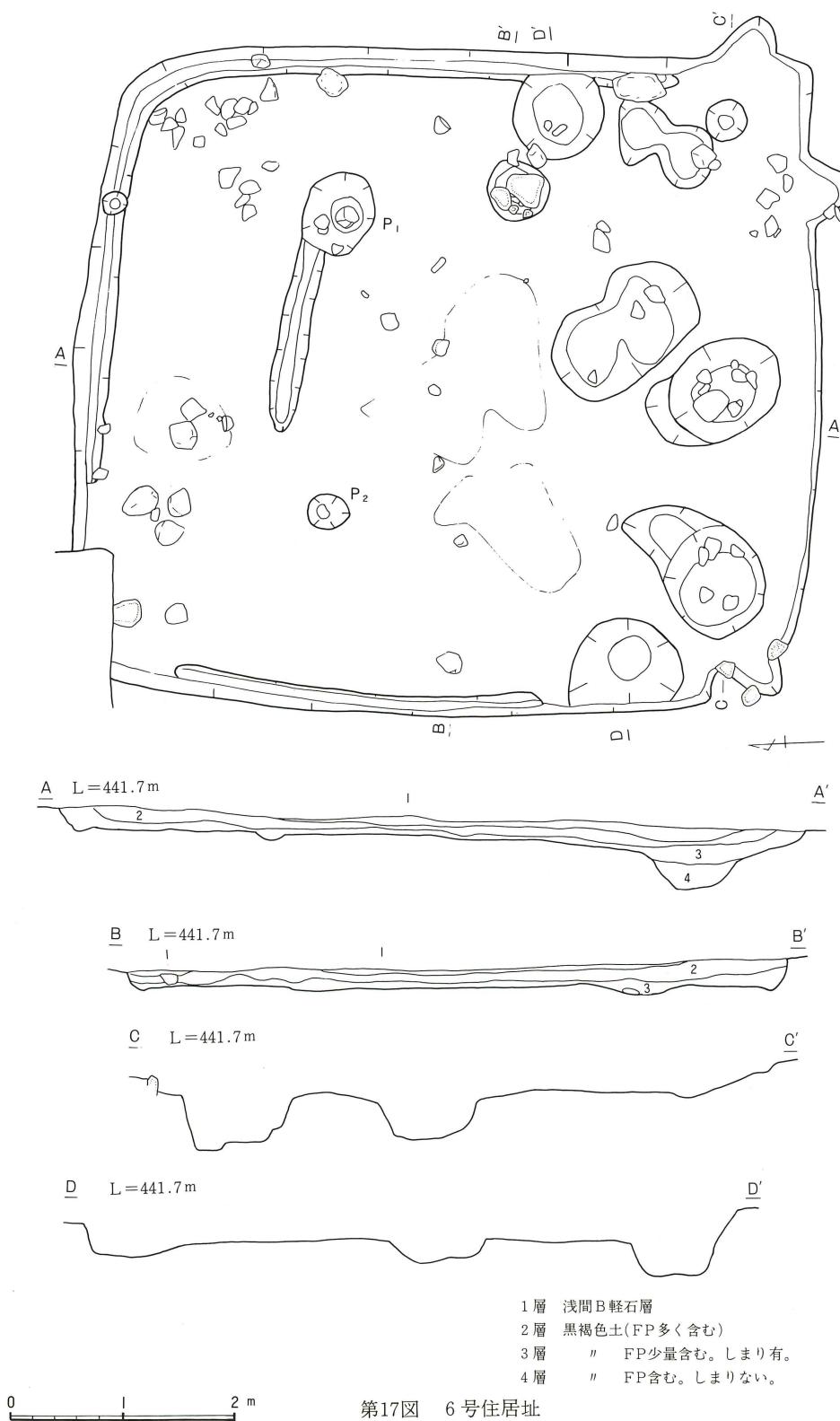
8号住居址（第21図）

A地区B-19・C-19グリットに位置する。南側を試掘トレンチによって削平されているため南北規模は不明であるが、東西3.08mを測る方形あるいは長方形のプランを呈する住居址と想定される。確認面からの深さは東壁側で21cmを測り、東・北壁には浅い壁溝が巡る。

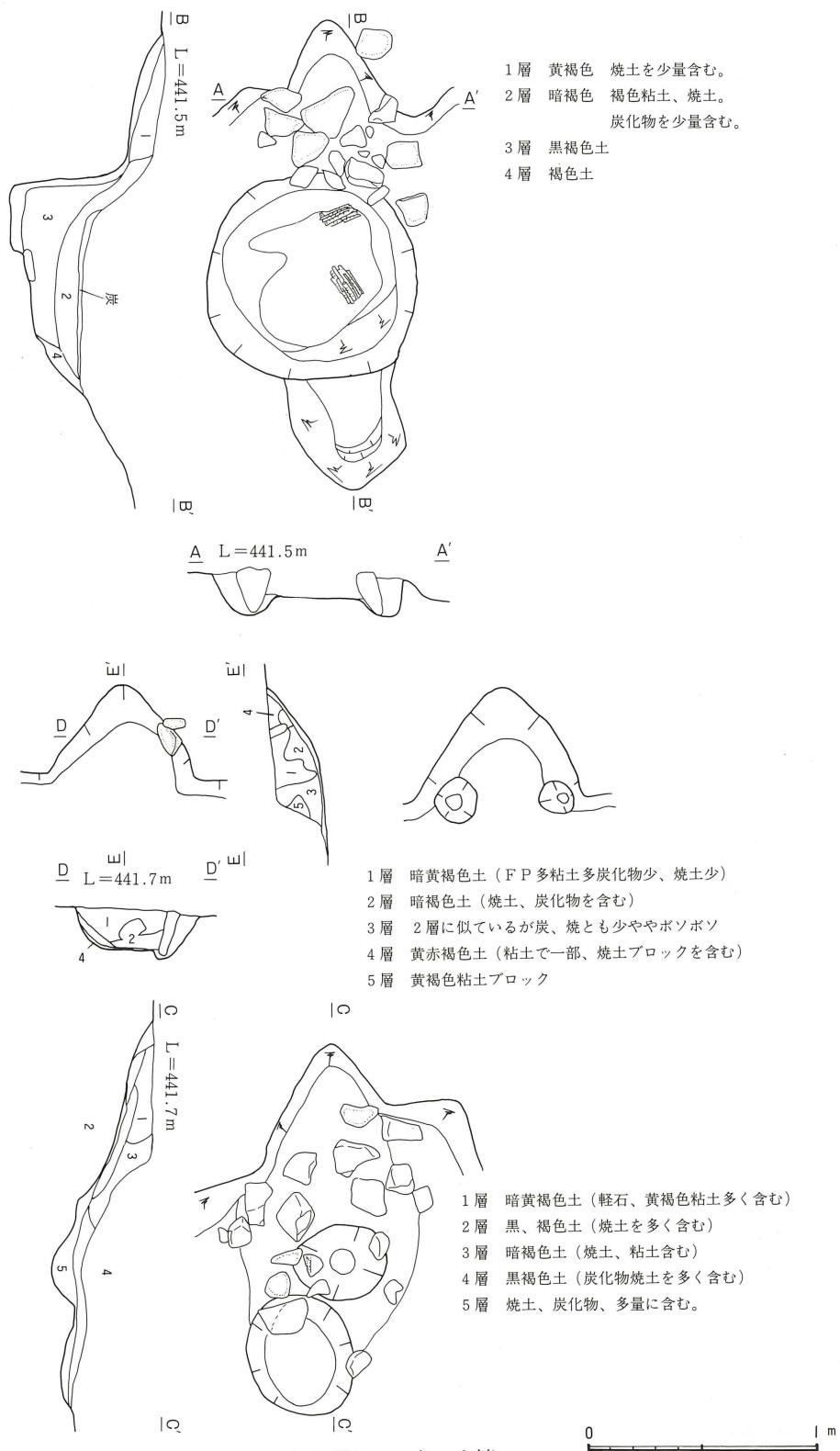
東壁のトレンチ部分床面において僅かではあるが焼土が検出されたことからこの位置にカマド



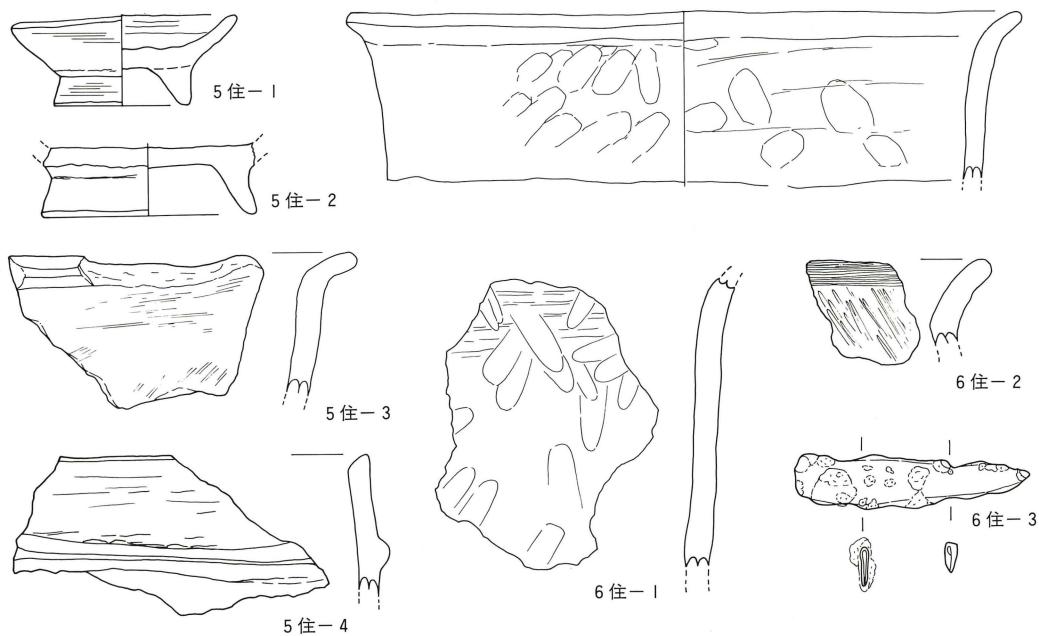
第16図 4・5号住居址



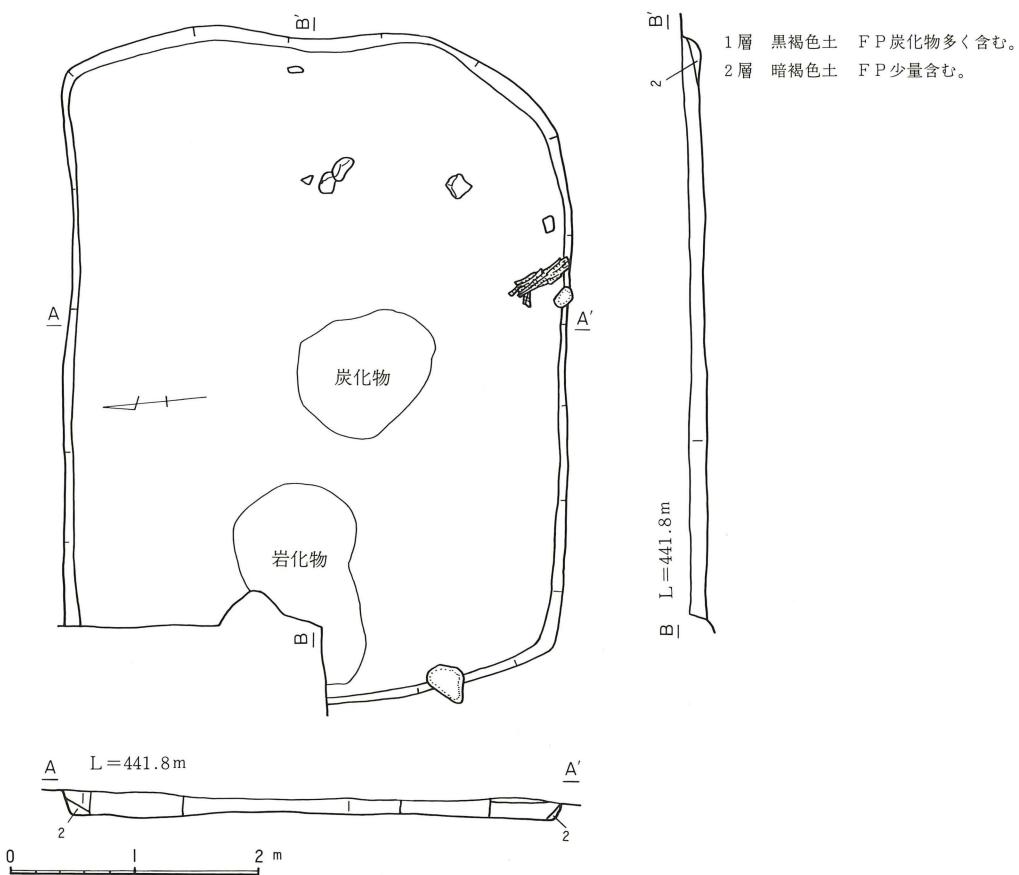
第17図 6号住居址



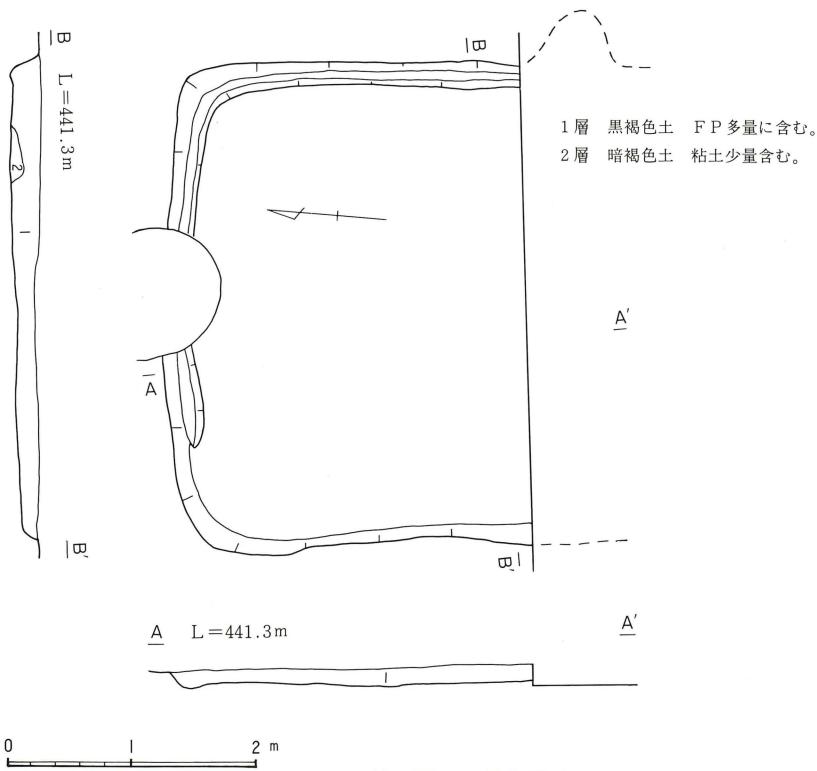
第18図 6号住居址カマド・土壙



第19図 5・6号住居址出土遺物



第20図 7号住居址



第21図 8号住居址

が設置されていたことが窺われる。

出土遺物は皆無である。

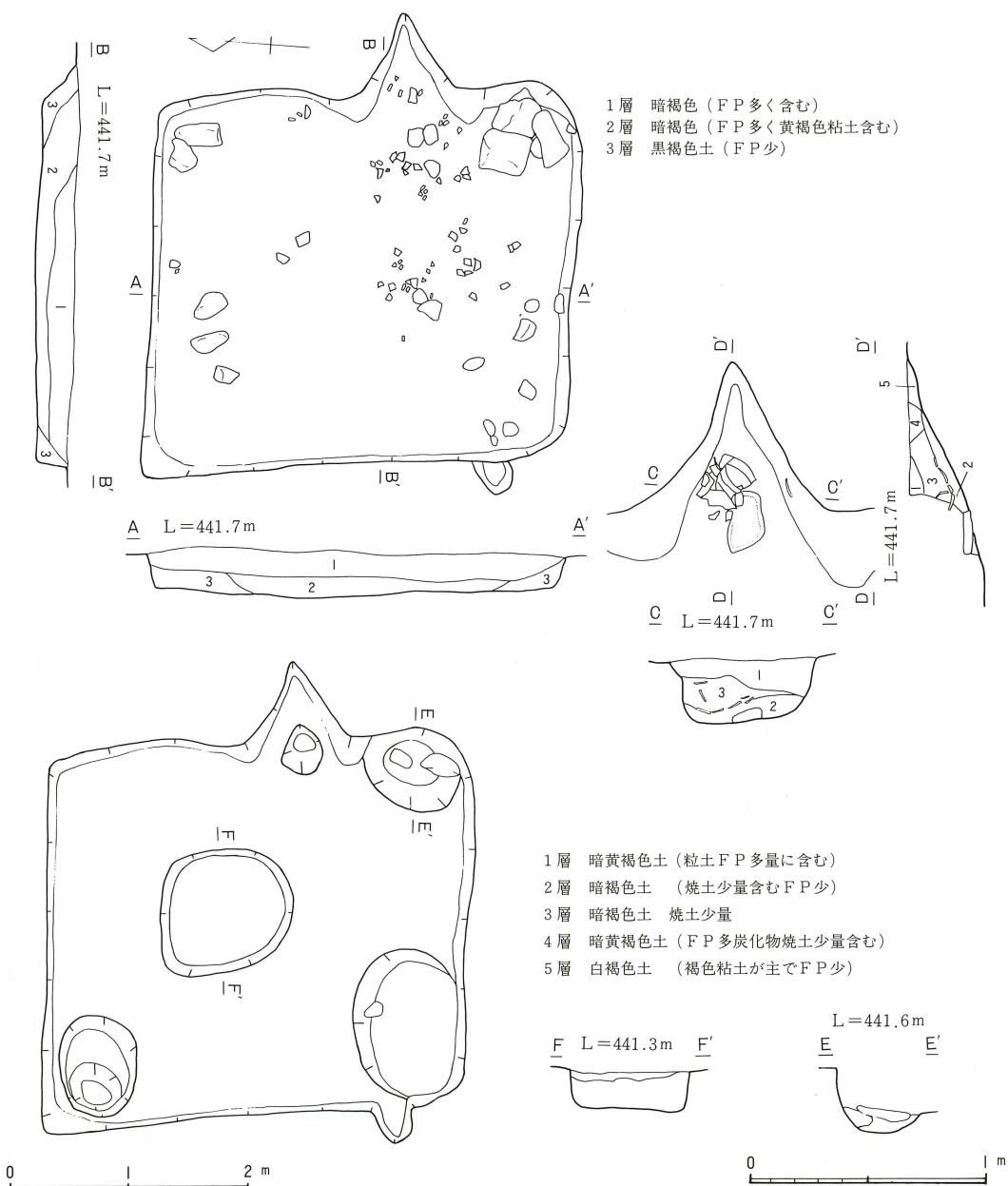
9号住居址（第22図）

A地区D・E-19グリットに位置する。カマドを東辺中央やや南寄りに有する方形プランの住居址で、南北3.51m東西3.14mを測る。確認面からの深さは北壁側で32cmを測る。柱穴は西辺西側のみ確認された。土壌は4基確認されたが、南東コーナー部の土壌は貯蔵穴、他は床下土壌である。

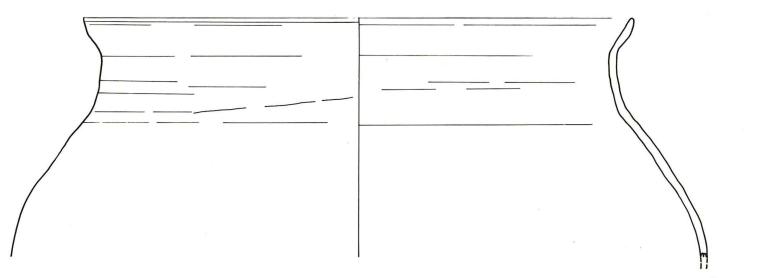
出土遺物は、カマド中央部から甕が潰れた状態で出土しているほかは、石が多くを占める。

10号住居址（第25図）

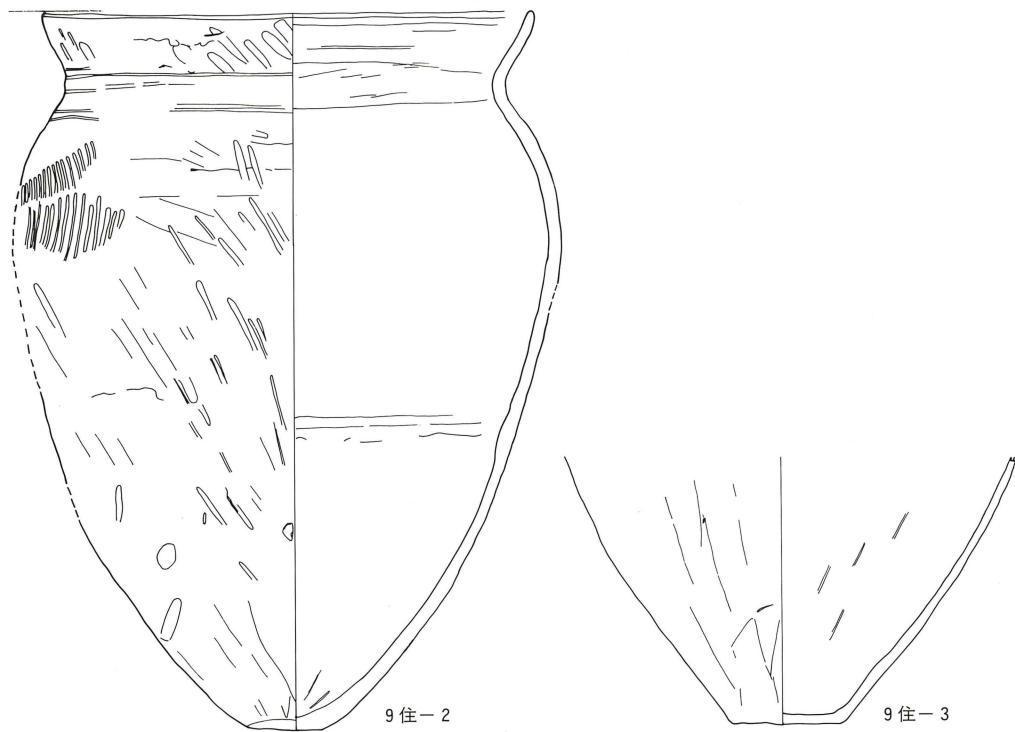
A地区E-20・21グリットに位置する。南東コーナー部にカマドを有する隅丸長方形プランの住居址で、南北4.30m東西3.06m確認面からの深さは東壁側で33cmを測る。柱穴検出されなかつたが土壌が3基確認された。この内平面形が「こけし」型をした土壌は壁面に石が配置され、床面からは1cm前後の鉄滓が多く検出された。更にこの土壌より80cm北側には、床直に平面形がU字型で焼けて硬質化した粘土が設置されていた。U字の内側には炭化物が認められた。カマドは偏平な石を袖石にしたカマドで、中央部にはフイゴの羽口が転用され支脚として使用されていた。



第22図 9号住居址



第23図 9号住居址出土遺物 (1)



第24図 9号住居址出土遺物（2）

出土遺物は量が多くなかったが、高台付壺や皿状の小型壺が7点出土した。

11号住居址（第28図）

A地区D-14・15、E-14・15グリットに位置する。カマドを東辺中央やや南寄りに有する方形プランの住居址で、南北3.20m東西4.10mで、確認面からの深さは北壁側で38cmを測る。柱穴は検出されなかった。カマドは補強に石を使用している。

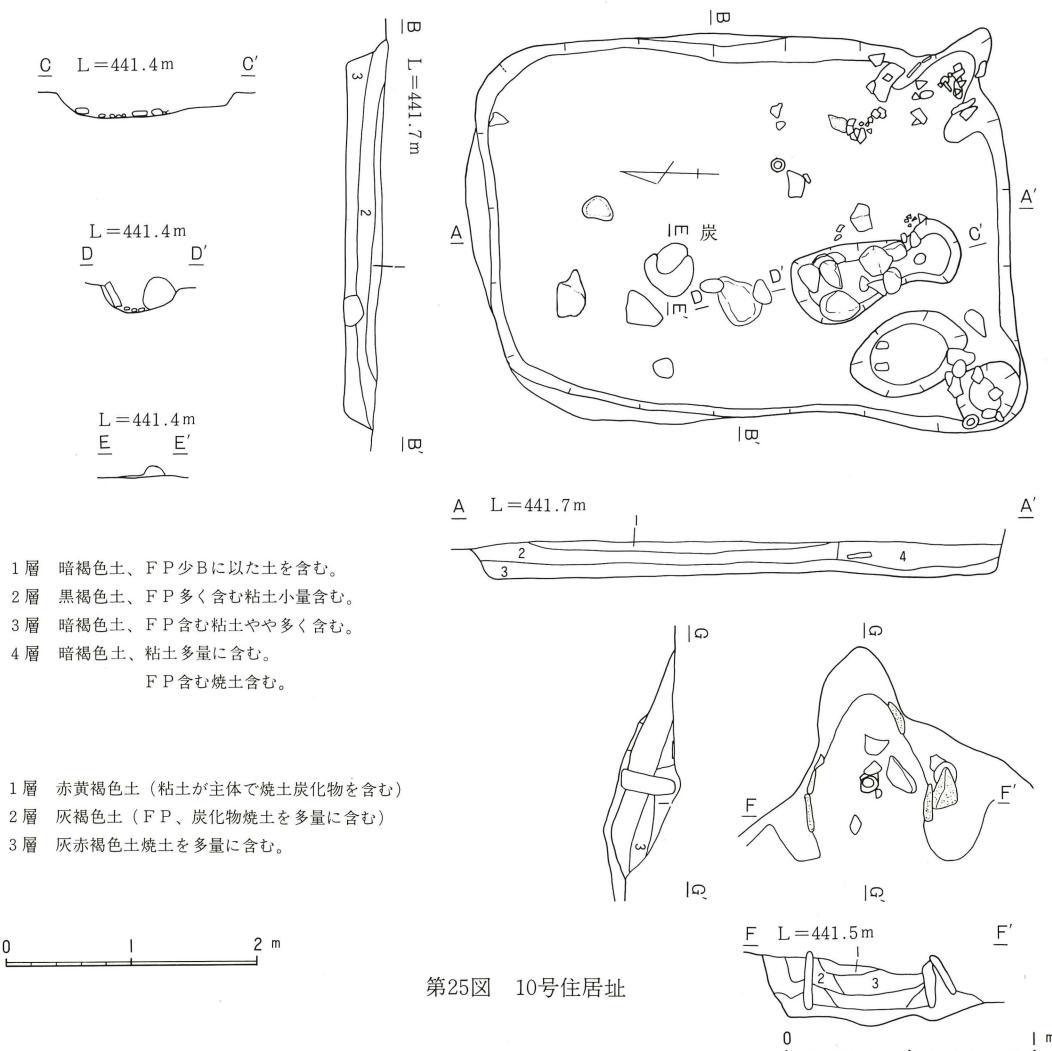
出土遺物は量は多くなかったが、壺類が検出されている。

12号住居址（第30図）

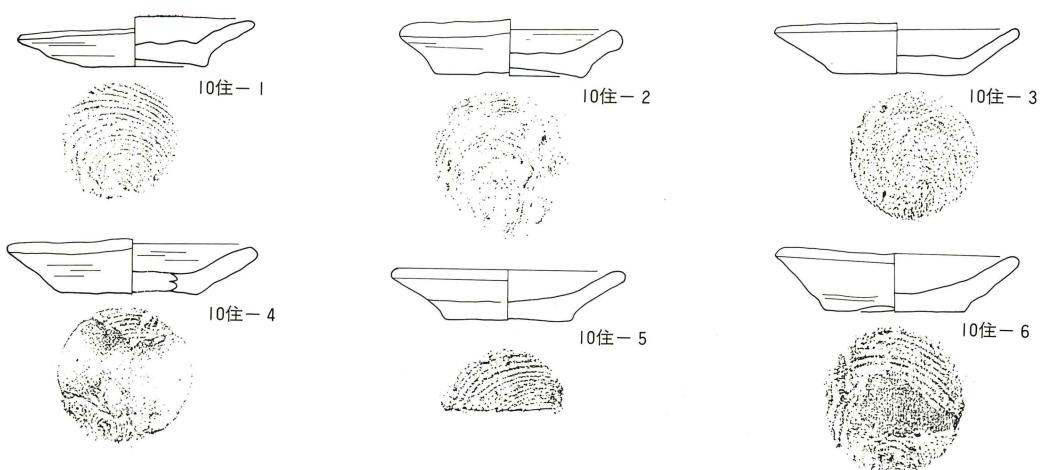
A地区D-10グリットに位置する。調査区の南端にあたることや、カマドから南側が攪乱されていることにより調査できたのはカマドの部分のみであった。カマドは他の住居址と同様、住居の東辺設置された石を使用したカマドで中央部には石の支脚が据えられていた。長期に渡り使用されていたらしく、燃焼部から煙道にかけて良好に焼けて焼土化していた。

14号住居址（第30図）

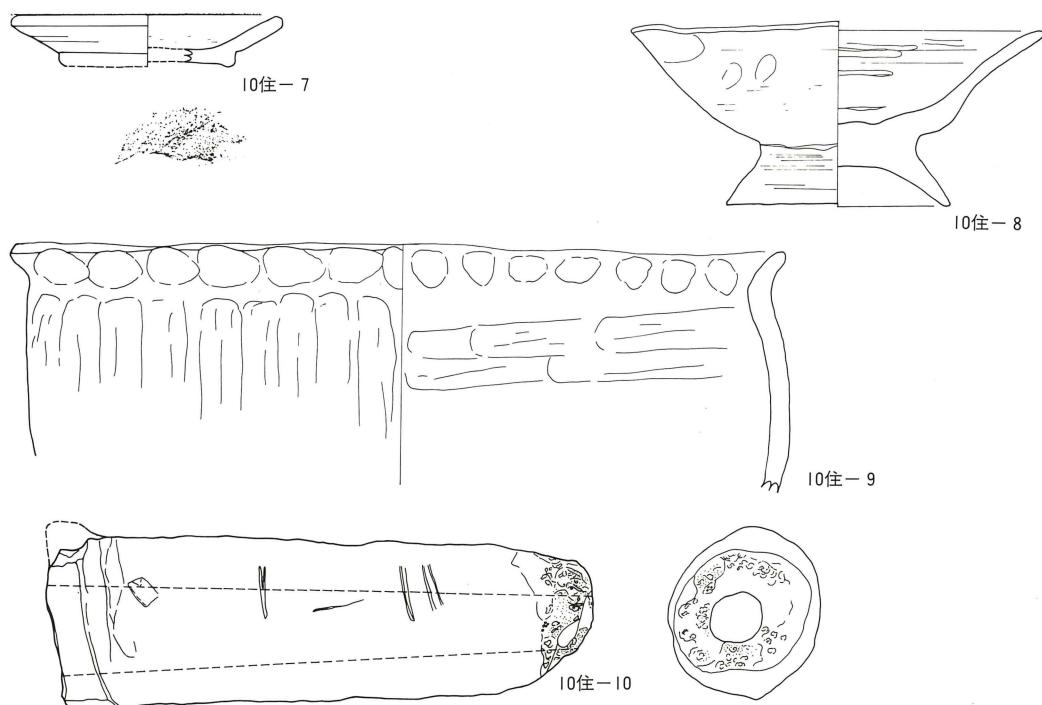
B地区Y-7グリットに位置する。東辺中央やや南寄りにカマドを持つ隅丸方形プランの住居址で、南北2.85m東西2.66m確認面からの深さは東壁側で25cmを測る。柱穴は検出されなかった。



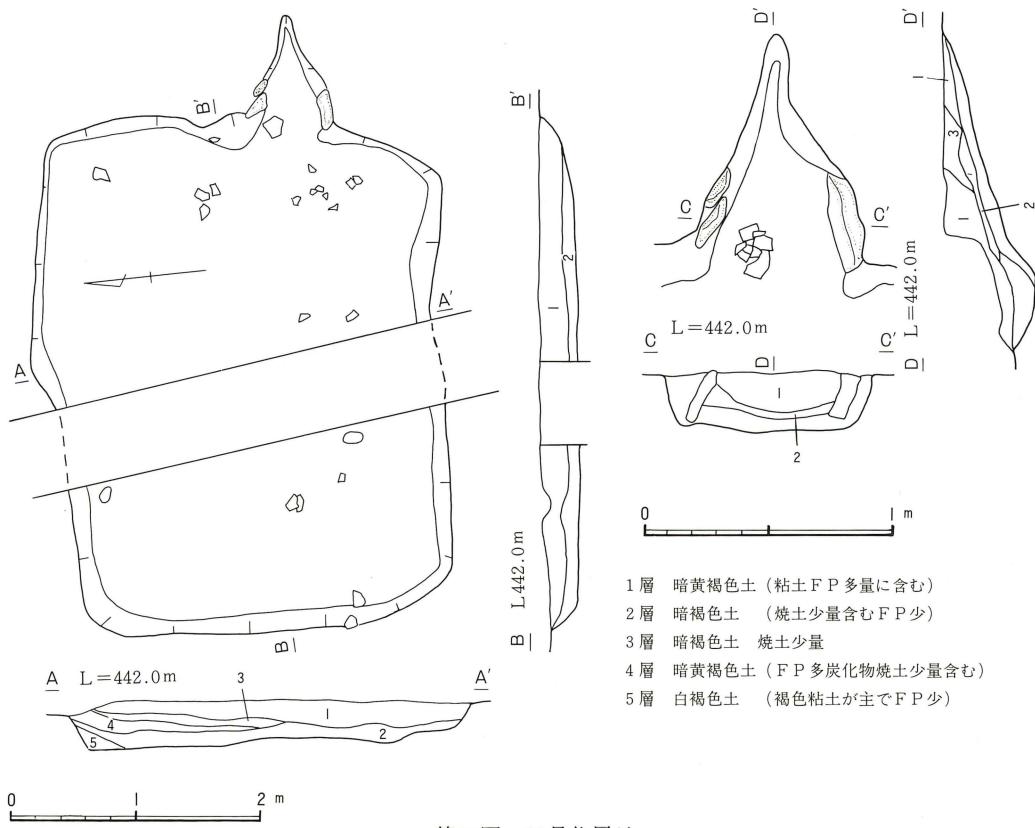
第25図 10号住居址



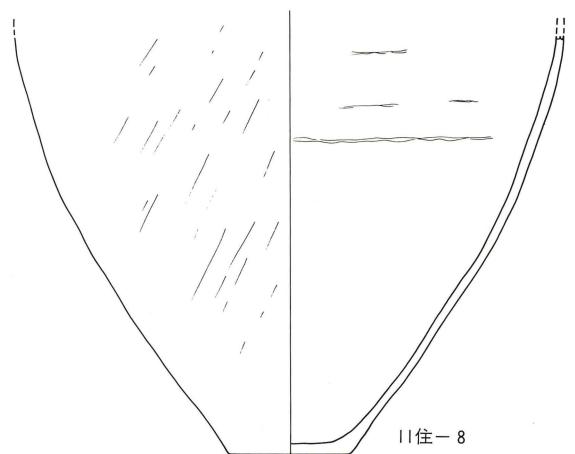
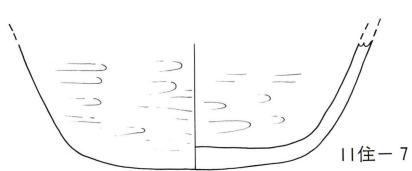
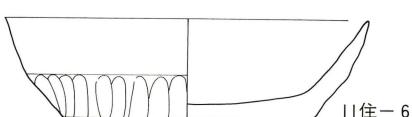
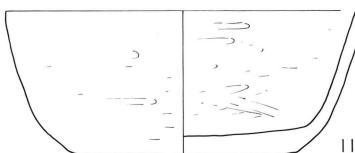
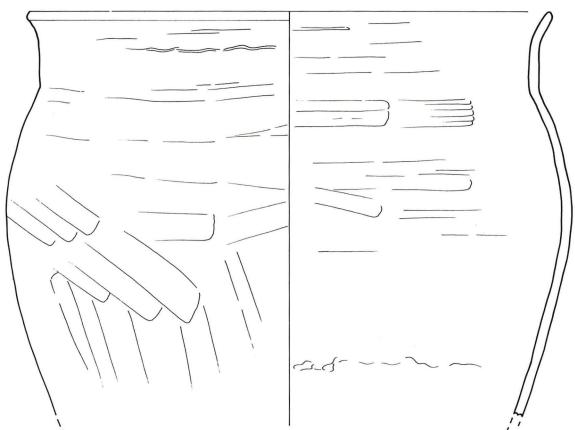
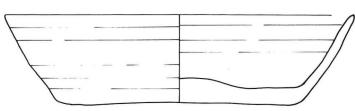
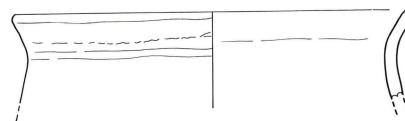
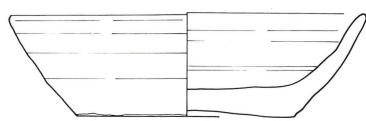
第26図 12号住居址出土遺物 (1)



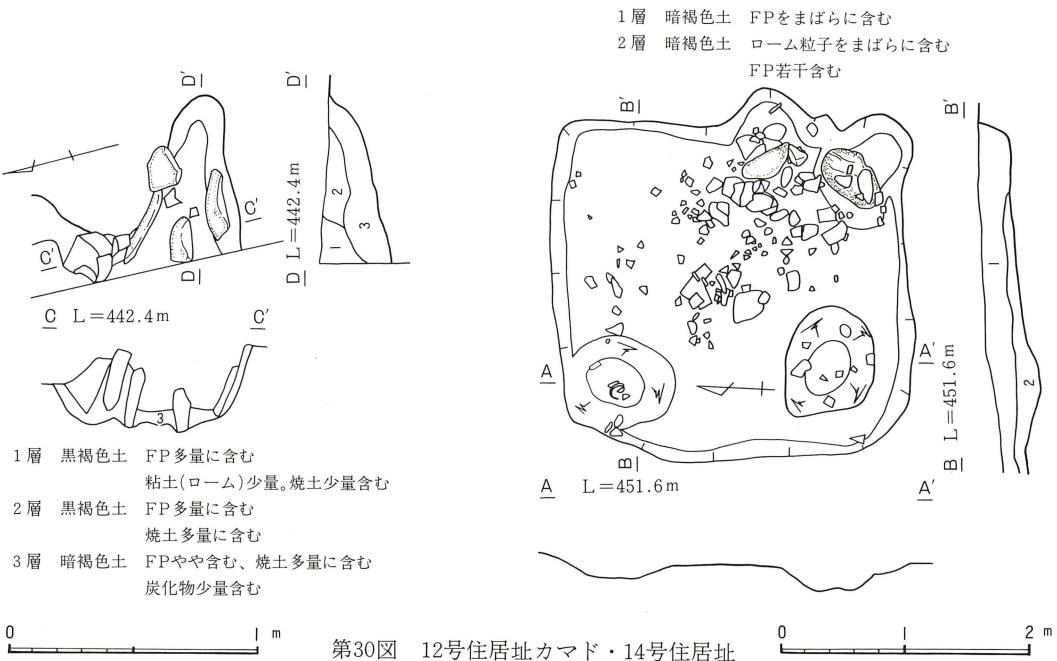
第27図 10号住居址出土遺物 (2)



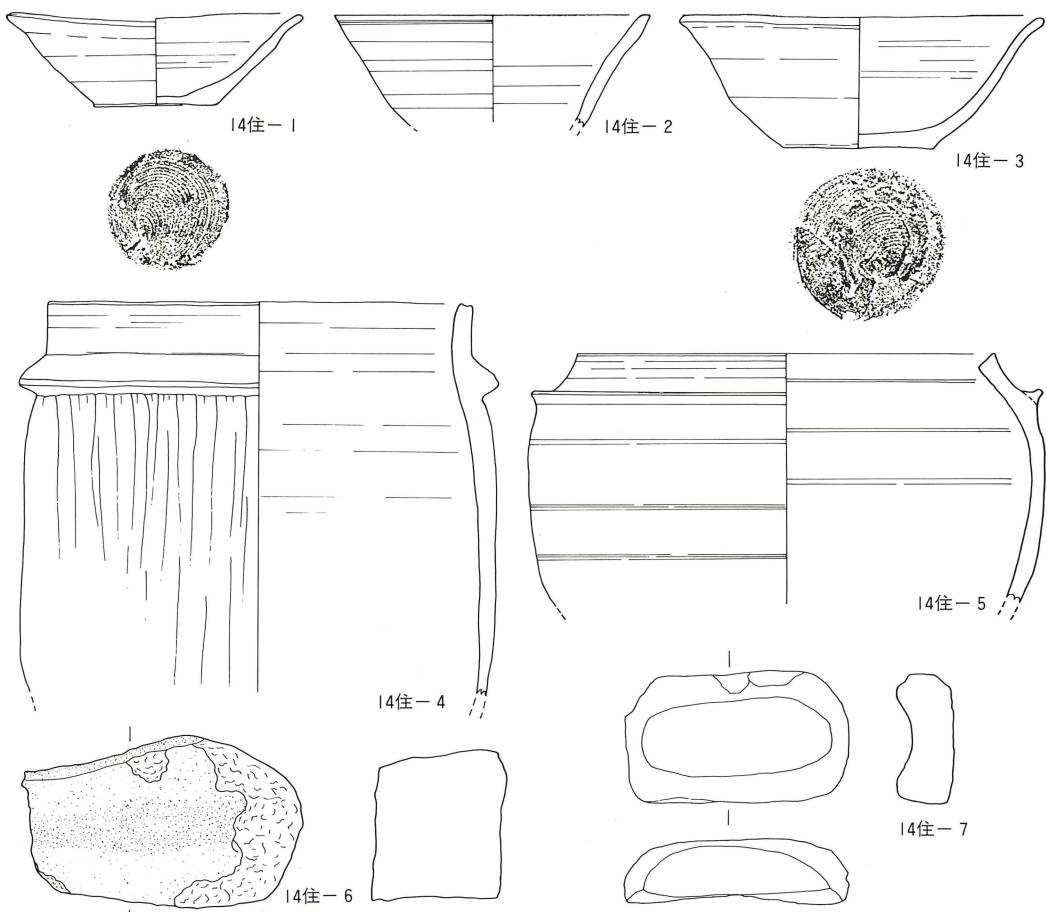
第28図 11号住居址



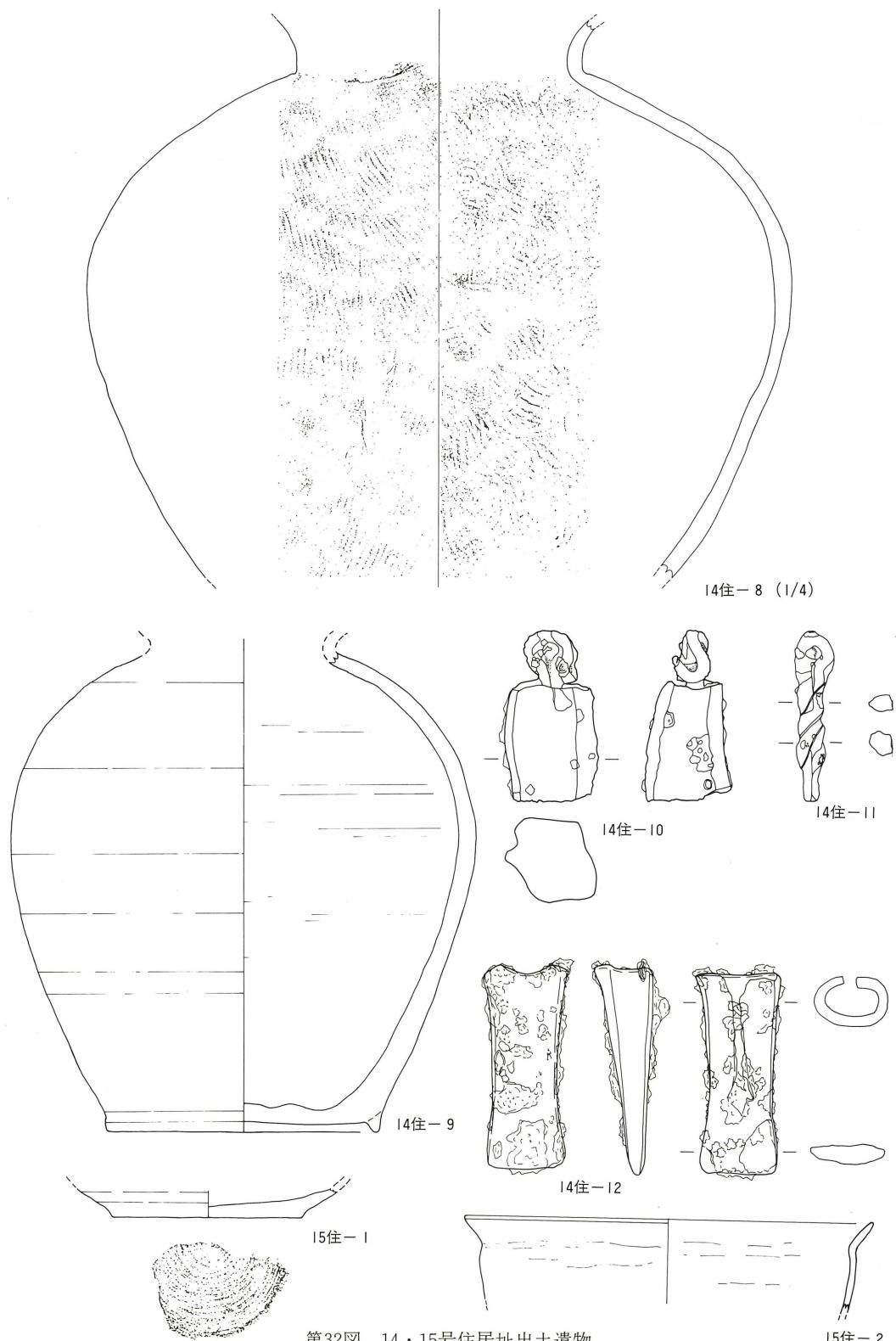
第29図 11号住居址出土遺物



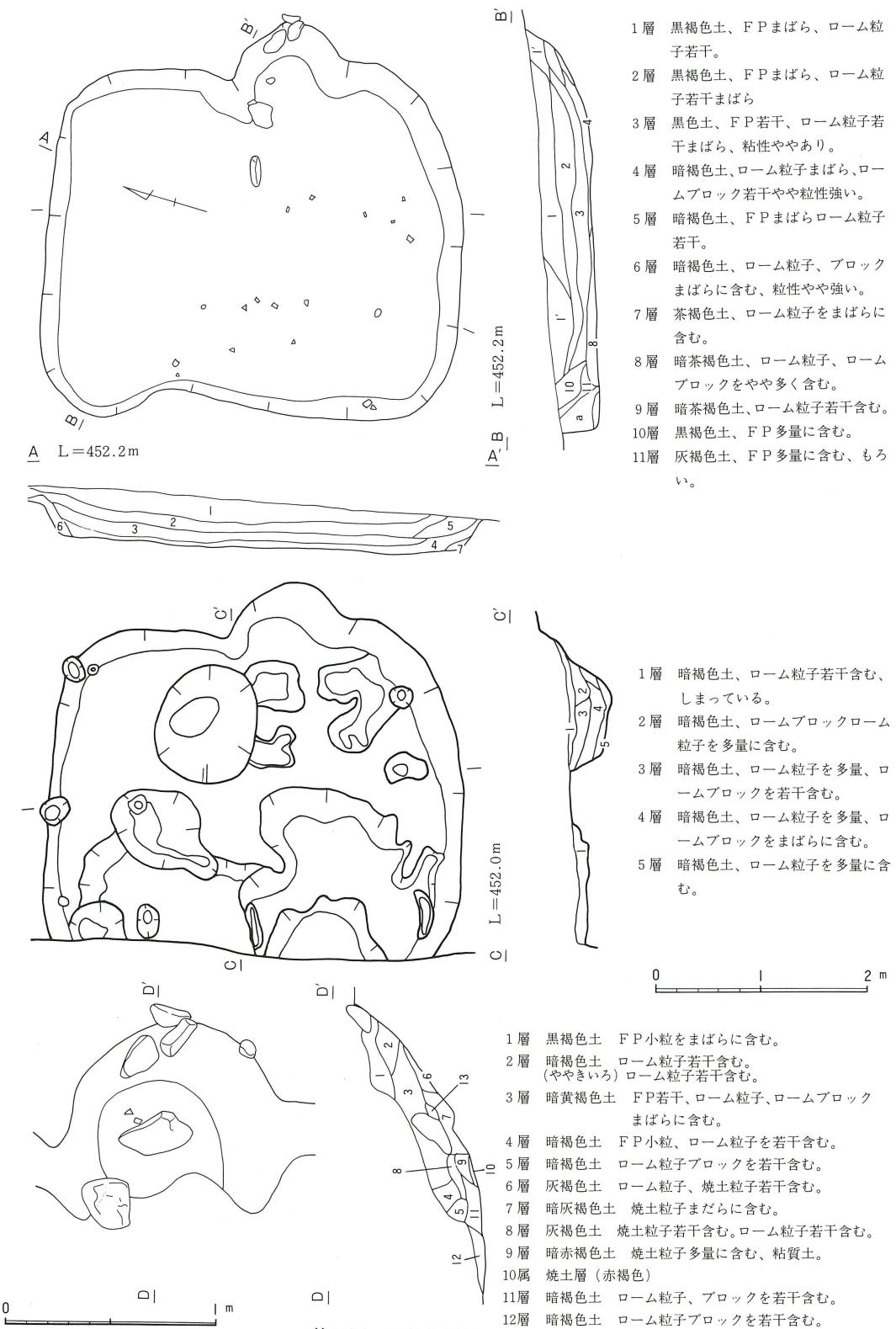
第30図 12号住居址カマド・14号住居址



第31図 14号住居址出土遺物 (1)



第32図 14・15号住居址出土遺物



第33図 15号住居址

土壙は3基検出されたが、南東コーナー部は貯蔵穴他は床下土壙である。

カマドは、使用された石がほとんど抜き取られて崩壊していた。

出土遺物はカマドの手前に多く検出された。壺類や須恵器大甕等の他、錘、斧が出土している。

15号住居址（第33図）

B地区Y-4グリットに位置する。東辺中央カマドを持つ隅丸方形プランの住居址で、南北3.95m東西3.20m確認面からの深さは北壁側で46cmを測る。柱穴は検出されなかった。

カマドは、使用された石がほとんど抜き取られて崩壊していた。

出土遺物は僅かに小片の土器が検出されたのみである。

IV まとめ

1 弥生時代

後期後半樽式期の住居址をA地区から1軒、B地区から2軒検出した。いずれも長方形プランを呈し、主軸をほぼ南北にとった4本主柱の住居址である。A区の1号住から、B区の16号住まで約80mを測るが、同一集落を形成していたと想定できる。各住居址を比較した場合、16号住が1・13号住の3倍前後の面積を持つことが特筆される。

2 平安時代

A区から11軒、B区から2軒が検出された。4・5・7号住居址はカマドを持たないこと、掘込み浅いことなど他の一般的な竪穴住居址と異なる様相を呈する。各住居址とも出土遺物は少ないが、5号住居址出土の壺の形態や土釜片などから判断して同時代でも新しい時期の住居址と考えられる。2・10・14号住からは鉄滓あるいは羽口が検出されている。特に10号住については小鍛冶が行われていたと想定される土壙が鉄滓を伴って検出されている。さらに、皿状小型壺が多く出土し、土釜も検出されており同時代の末期的様相を呈する。11号住からは、底部が平底に近い土師器の壺とロクロ成形で全面に磨きのかかった内黒土器が出土しており、今回検出した同時代の住居址内では最も古い時期に位置付けされよう。

遺物観察表(弥生時代)

遺物番号 写真番号	器種	出土位置 遺存状況	法量 cm ()は推定	胎土・焼成・整形の特徴	文様・その他
1住-1 81	壺	床直 ほぼ完形	口 18.7 胴 22.4 底 8.0 高 31.5	砂粒含。やや軟弱。外面口縁縦、胴部横、胴下部斜方向櫛目整形後窓磨き。内外面とも黄褐色。外面一部黒色部有。	頸部→7条1単位の簾状文。胴上部→櫛描波状文。頸部より7条1単位の縦位の櫛描文が6ヶ所懸垂し、その先には横線の入ったボタン状貼付文が付く。
1住-2 82	甕	床直 口縁部から 胴部 1/2 残	口 13.6 頸 11.0	細砂粒少量含む。やや軟弱。内外面とも横位の窓磨き。黒褐色。	口縁部→櫛描波状文。頸部→7条1単位の簾状文。1住-10の台として検出。
13住-1 84	高坏	覆土 脚部	底 9.7	細砂粒多く含。普通。内面横位の窓磨き。外面縦位の窓撫で。赤褐色。	
13住-2 85	小形台付甕	覆土 ほぼ完形	口 8.8 胴 8.7 台底6.5 高 11.5	砂粒少量含。普通。台内面横位刷毛整形。胴外下部、内部横位、台部縦位の窓磨き。黒褐色。	口縁から胴部に櫛描波状文。
13住-3	甕	覆土 口	縁	砂粒含。堅緻。外面縦方向刷毛整形。内面横方向窓磨き。内外面黄土色。折返し口縁。	口縁と胴上部→櫛描波状文。頸部→簾状文。
13住-4	甕	覆土 口	縁	砂粒含。堅緻。外面縦方向刷毛整形。内面横方向窓磨き。内外面黄褐色。折返し口縁。	口縁部→櫛描波状文。
13住-5	甕	覆土 口	縁	砂粒含。堅緻。内面黄土色。外面暗黄土色。	口縁部→櫛描波状文。
13住-6	壺	覆土 頸部		砂粒含。堅緻。内面黄土色。外面赤褐色。	頸部→簾状文。櫛描懸垂文。
13住-7	壺	覆土 胴上部		砂粒含。堅緻。内面黄土色。外面赤褐色。	胴上部→簾状文。9条1単位の櫛描懸垂文。
1住-3 83	壺	覆土 頸部から 胴上部 1/3	頸 13.2	砂粒少量含。軟弱。頸部「く」の字に開く。最大径は胴中位以下。外面縦位の窓磨き。内面輪積痕多く残る。茶褐色。	頸部→簾状文と波状文。
16住-1	鉢	覆土 1/3	口(13.0) 底(5.6) 高(5.7)	砂粒少量含。堅緻。底部より直線状に開く。内外面とも上部横、下部縦位の窓磨き。	内外面赤色塗彩。
16住-2 87	鉢	覆土 1/3	口(17.0) 底 5.3 高 9.8	砂粒多く含。やや軟弱。内彎しながら立上り口縁わずかに外反する。黒褐色。	
16住-3 88	甕	床直 口縁から 胴部 1/3	口(14.0) 頸(12.0) 胴(14.8)	砂粒含。堅緻。内外面横位の窓磨き。にぶい褐色。	口縁部→波状文。頸部→9条1単位2連止右回り簾状文。
16住-4	高坏	覆土 脚部欠失	口 22.0	砂粒含。堅緻。頸部から口縁に直線状に開く。内面横、外面縦位の窓磨き。	内外面赤色塗彩。
16住-5	壺	覆土 口縁部破片	口(26.0)	砂粒多く含。堅緻。頸部から大きく外反する折返し口縁。内面横位の窓磨き。外面斜位の刷毛調整。灰褐色。	
16住-6	甕	覆土 口縁部破片	口(9.2)	細粒含。堅緻。口唇部横撫で。外面縦位の刷毛調整。灰褐色。	
16住-7	壺	覆土 口縁部破片	口(22.4)	細砂粒少量含。堅緻。折返し口縁。外面刷毛調整。茶褐色。	
16住-8	甕	覆土 底部破片	底 5.0	細砂含。堅緻。内面斜位の刷毛調整。内面暗褐色。外面黄褐色。	

16住-9 89	高 坏	覆 土 頸 部 破 片	頸 4.8	微砂粒多く含。堅緻。脚上部に4ヶ所穿孔。内面横、外面縦位の箆磨き。	内外面赤色塗彩。
16住-10	高 坏	覆 土 頸 部 のみ	頸 3.8	砂粒少量含。堅緻。内面横、外面縦位の箆磨き。赤褐色。	
16住-11 90	高 坏	覆 土 脚 部	裾径9.0	細砂多量に含。堅緻。坏部欠損。脚は緩やかに開く。内面横位の刷毛整形。外面縦位の丁寧な箆磨き。赤褐色。	
16住-12	壺	覆 土 胴 部 破 片		砂粒多く含。やや軟弱。内面横位の撫で。内面灰黒色。外面淡褐色。	胴上部横位の櫛描文。縦位櫛描文の先端にボタン状貼付文。 (横位沈線有)
16住-13	甕	覆 土 口縁部破片		砂粒含。堅緻。内面横位の刷毛撫で。赤褐色。	口縁部→櫛描波状文。
16住-14	甕	覆 土 口縁部破片		細砂粒含。堅緻。内面横位の箆撫で。茶褐色。	口縁部→櫛描波状文。
16住-15	甕	覆 土 口縁部破片		砂粒含。堅緻。内面横位の箆撫で。褐色。	口縁部→櫛描波状文。
16住-16	甕	覆 土 口縁部破片		砂粒含。堅緻。内面横位の箆撫で。折返し口縁。褐色。	口縁部→櫛描波状文。

遺物観察表（平安時代）

遺物番号 写真番号	器種 種別	出土位置 遺存度	法量 cm ()は推定	胎 土・焼成・色調	器形の特徴	成形・調整の特徴
2住-1 55	塊 須恵器	覆 土 %	口 14.2 底 6.6 高 5.5	細砂粒やや多く含。やや不良。淡褐色。	底部は「ハ」の字状の高台。体部は丸みを持って立ち上がり口縁部で外反。	ロクロ整形。
2住-2 56	塊 須恵器	覆 土 %	口 14.8 底 7.2 高 6.1	砂粒多く含。良好。灰白色。	底部は「ハ」の字状の高台。体部は丸みを持って立ち上がり口縁部で外反。	ロクロ整形。底部に回転糸切痕。
2住-3 57	坏 須恵器	床 直 %	口 13.2 底 6.0 高 4.0	砂粒多く含。やや不良。灰褐色。	わずかに上げ底。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部で外反。	ロクロ整形。底部に左回転糸切痕。
2住-4 58	坏 須恵器	覆 土 %	口 13.2 底 6.1 高 3.9	砂粒多く含。やや不良。灰褐色。	わずかに上げ底。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部で外反。	ロクロ整形。底部に左回転糸切痕。
2住-5	羽 釜 須恵器	覆 土 口縁部片	口(20.6)	砂粒多く含。良好。灰色。	口縁部やや内彎。上端部平。鍔はやや小型。	口縁内外面横撫で。胴部縦位の箆削り。
2住-6	甕 須恵器	床 直 底 部 片	底(14.0)	砂粒多く含。良好。灰色。	平底の底部から外反ぎみに立ち上がる。	
2住-7	羽 口	覆 土 %		土製品。大半を欠損する。直径7.3cm、孔径3.2cm、色調は灰褐色を呈する。		
3住-1 59	坏 須恵器	床 直 %	口 12.0 底 7.0 高 3.6	砂粒含。良好、灰色。	わずかに上げ底。直線状に開き口縁部で外反。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。
3住-2 60	坏 須恵器	床 完 直 形	口 11.6 底 6.3 高 4.0	砂粒多く含。良好。黒色。	体部は丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。

3住-3 61	坏 須惠器	床 直 ¾	口 11.5 底 6.0 高 3.9	砂、小石多く含。良好。灰褐色。	体部から口縁部にかけて直線状に立ち上がる。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。
3住-4 62	坏 須惠器	床 直 ¾	口 12.0 底 6.3 高 4.0	砂粒多く含。良好。灰褐色。	わずかに上げ底。体部はやや丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。
3住-5 63	坏 須惠器	床 直 ほぼ完形	口 12.0 底 7.3 高 4.1	砂粒多く含。良好。灰色。	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部はわずかに外反。	ロクロ整形。底部に左回転糸切り痕。
3住-6 64	坏 須惠器	床 直 ほぼ完形	口 12.6 底 6.6 高 4.1	砂粒多く含。良好。内-淡褐色。外-黒色。	体部は丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。
3住-7	坏 須惠器	覆 土 ¼	口(14.0) 底 1.8 高 5.9	砂粒少量含。良好。灰色。	体部深く、丸みを持って立ち上がり、口縁部でわずかに外反。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。
3住-8	坏 須惠器	覆 土 ¼	口(12.0) 底 (6.8) 高 3.7	砂粒少量含。良好。灰黒色。	体部はやや丸みを持って立ち上がり、口縁部でわずかに外反。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。
3住-9	坏 須惠器	覆 土 ½	口(12.2) 底 (6.4) 高 3.9	砂粒多く含。良好。灰色。	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部で外反。	ロクロ整形。底部に回転糸切り痕。
3住-10 65	坏 須惠器	床 直 ¾	口 13.2 底 7.4 高 4.3	砂粒多く含。良好。灰黒色。	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部でわずかに外反。	ロクロ整形。底部に左回転糸切り痕。
3住-11 66	坏 須惠器	床 直 ほぼ完形	口 14.0 底 8.0 高 4.9	砂粒、小石を多く含。良好。灰黒色。	わずかに上げ底。体部は深くやや丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。底部に左回転糸切り痕。
3住-12 67	坏 須惠器	覆 土 ¼	口 12.0 底 6.8 高 3.7	砂粒含。良好。灰黒色。	体部は丸みを持って立ち上がり口縁部で外反。	ロクロ整形。底部に右回転糸切り痕。
3住-13	坏 須惠器	床 直 ½	口 13.8 底 8.0 高 4.2	砂粒、小石多く含。良好。外-灰褐色。内-灰黒色。	体部は直線ぎみに立ち上がり、口縁部はわずかに外反。	ロクロ整形。底部に左回転糸切り痕。
3住-14	坏 須惠器	床 直 ½	底 6.4	砂粒含。良好。灰色。	体部はやや丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。底部に左回転糸切り痕。
3住-15	坏 須惠器	床直・カマド ¼	口 14.6 底 6.8 高 6.8	砂粒少量含。良好。淡灰褐色。	体部は深く丸みを持って立ち上がり、口縁部で外反。	ロクロ整形。
3住-16	甕 土師器	覆 土 口縁部片	口(20.6)	細砂多量に含。良好。暗褐色。	口縁部「く」の字に外反。	口縁部横撫で。
3住-17	小型甕 土師器	柱 穴 ¾	口(11.0)	砂粒多く含。良好。灰褐色。	胴部は球状を呈し、口縁部は「く」の字に丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。
3住-18	甕 土師器	覆 土 口縁部片	口(18.4)	細砂多く含。良好。褐色。	口縁部はやや「コ」の字状を呈する。	口縁部横撫で、胴上部縦位のヘラ削り。
3住-19 68	甕 土師器	床 直 ½	口 13.0 底 4.4 高 14.8	細砂多く含。良好。褐色。	やや小型で、球胴を呈し最大径を胴中位に持つ。口縁部はやや「く」の字に外反。	口縁部横撫で。

3住-20 69	甕 須恵器	覆 胴 部 片	土 胴(19.0)	砂粒多く含。良好。 外一青灰色。内一褐色。	直線状に外反しながら立ち上がり胴中央部で内彎する。	ロクロ整形。
3住-21 70	刀子 鉄製	床 直 ほぼ完形	直 現存長 17.5 巾 1.4		先端部を欠損するがほぼ完形。全体的に錆化著しい。	
3住-22 71	紡錘車 石製	覆 土 ほぼ完形	土 上径 3.0 厚 1.2 重量 46g 下径 4.8 孔径 0.9		断面台形状。全面に擦痕有。	
5住-1 72	小型坏 土師器	覆 完 土 形	口 9.0 底 4.5 高 3.6	細砂多く含。良好。明褐色。	直立ぎみの高台が付く。 坏部は浅く皿状を呈する。	ロクロ整形。
5住-2	塊 土師器	覆 土 底 部 の み	底 8.5	細砂多く含。良好。明褐色。	「ハ」の字状に高い台が付く。	ロクロ整形。
5住-3	土釜	覆 土 口 縁 部 片		粗砂多量に含。普通。褐色。	口縁部が「く」の字に大きく外反。	
5住-4	羽釜	覆 土 口 縁 部 片		粗砂多量に含。良好。	鍔はやや小型。	口縁部横撫で。
5住-5	土釜	覆 土 口 縁 部 片	口(27.0)	粗砂多量に含。良好。明褐色。	口縁端部が強く外反する。	内外面に指頭痕。
6住-1	土釜	覆 土 口 縁 部 片		粗砂多量に含。普通。褐色。	直線状に立ち上がり、口縁部で外反。口唇部欠損。	口縁部横撫で。
6住-2	土釜	覆 土 口 縁 部 片		粗砂多量に含。普通。黒褐色。	口縁部は「く」の字に外反。	
6住-3 73	刀子 鉄製	床 直 ½	現存長9.3 巾 1.7	刃部下半～茎部欠損。全体的に錆化著しい。		
9住-1	甕 土師器	床 直 口 縁 部 片	口(22.0)	細砂含。良好。明褐色。	「コ」の字状口縁を呈する。	胴上部横方向の箝削り。
9住-2 74	甕 土師器	カマド・床直 %	口 19.7 底 2.7 高 28.6	砂粒含。良好。茶褐色。	底部は小さく、胴上部で最大径、口縁部は「く」の字に外反。	胴上部横方向の箝削り。
9住-3 75	甕 土師器	床 直 ¼	底 4.5	細砂含。普通。茶褐色。	底部は小さく、やや内彎しながら立ち上がる。	胴下部縦方向の箝削り。
10住-1 76	小型坏 土師器	覆 完 土 形	口 9.5 底 5.1 高 2.0	砂粒多く含。良好。茶褐色。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。やや上げ底。	底部に右回転糸切痕。
10住-2 77	小型坏 土師器	覆 完 土 形	口 9.0 底 6.0 高 2.2	砂粒多く含。良好。褐色。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。やや上げ底。	底部に右回転糸切痕。
10住-3 78	小型坏 土師器	覆 ほぼ完形 土	口 9.8 底 5.3 高 2.0	砂粒多く含。良好。茶褐色。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。	底部に右回転糸切痕。
10住-4 79	小型坏 土師器	覆 ¼ 土	口(10.0) 底 (5.5) 高 2.2	砂粒多く含。良好。茶褐色。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。	底部に回転糸切痕。
10住-5	小型坏 土師器	覆 ½ 土	口 (9.4) 底 (5.2) 高 2.0	砂粒多く含。良好。茶褐色。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。	底部に回転糸切痕。

10住-6	小型壺 土師器	土 壤 %	口 9.8 底 5.8 高 2.6	砂粒多く含。良好。暗褐色。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。	底部に右回転糸切痕。
10住-7	小型壺 土師器	カ マ ド %	口(10.8) 底 (6.8) 高 2.1	砂粒多く含。良好。	皿状を呈し、口縁部が強く外反。	底部に回転糸切痕。
10住-8 81	壺 土師器	カ マ ド %	口 16.5 底 9.0 高 7.0	砂粒多く含。良好。茶褐色。	「ハ」の字状に大きく開いた高台が付く底部からやや丸みを持って立ち上がり口縁部で外反。	ロクロ整形。
10住-9 82	土 釜	覆 土 %	口(31.0)	粗砂粒多く含。普通。淡褐色。	胴上部はやや丸みを持ち口縁部で「く」の字に外反。	口縁部に連続指頭痕。
10住-10 83	羽 口	カ マ ド ほ ほ 完 形	長 21.8 外径 6.7 孔径 3.5		基部肥厚する。先端部にタール付着。	カマド支脚に転用。
11住-1 84	壺 須恵器	覆 土 %	口 14.3 底 8.8 高 4.1	砂粒少量含。良好。灰色。	やや上げ底で径が大きい。体部はやや丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。底部左回転糸切痕。
11住-2	甕 土師器	掘 方 口 縁 部 片	口(16.0)	砂粒少量含。普通。明褐色。	口縁部外反。	口縁部横撫で。
11住-3	壺 須恵器	覆 土 %	口(14.0) 底 (9.8) 高 4.0	砂粒少量含。良好。灰色。	底部が大きく浅い。体部はやや丸みを持って立ち上がる。	ロクロ整形。底部回転糸切の後、周縁部範削り。
11住-4	甕 土師器	カ マ ド %	口(21.0) 胴(22.6)	細砂含。普通。暗褐色。	口縁部は「コ」の字状を呈する。	口縁部横撫で。胴上部横位の範削り。
11住-5 85	壺 土師器	覆 土 %	口(14.2) 底 9.0 高 5.7	細砂粒含。良好。外一淡褐色。内一黒色。	底部大きく、体部は直線状に開く。	ロクロ整形。内外面とも横位の範磨き。
11住-6 86	壺 土師器	覆 土 %	口(14.5) 底(10.0) 高 3.9	砂粒含。普通。淡褐色。	底部大きく、体部は外面中位にわずかに稜を有する。	底面、胴下部範削り。口縁部横撫で。
11住-7 87	壺 土師器	覆 土 %	底 9.0	細砂粒含。良好。外一黄褐色。内一黒色。	底部はやや丸みを持ち、体部は直線状に開く。	ロクロ整形。内外面とも横位の範磨き。
11住-8 88	甕 土師器	覆 土 %	胴(28.0) 底 5.0	砂粒多く含。普通。茶褐色。	底径小さく、胴中位に最大径。	縦位の範削り。
14住-1 89	壺 須恵器	覆 土 ほ ほ 完 形	口 11.8 底 5.0 高 3.6	砂粒多く含。普通。外一黒褐色。内一褐色。	体部はやや丸みを持って立ち上がり口縁部は外反。	ロクロ整形。底部に右回転糸切痕。
14住-2 90	壺 須恵器	覆 土 %	口 12.6	砂粒多く含。普通。外一灰色。内一黒色。	体部は直線状に立ち上がる。	ロクロ整形。
14住-3 91	壺 須恵器	覆 土 %	口(14.6) 底 6.0 高 7.0	砂粒含。普通。黒褐色。	体部は丸みを持って立ち上がり口縁部は外反。	ロクロ整形。底部に右回転糸切痕。
14住-4	羽 釜 須恵器	覆 土 %	口(17.0)	粗砂多く含。良好。外一灰色。内一灰黒色。	口縁部は短く直立する。鍔は小さく胴部はやや丸みを持つ。	胴部縦位の範削り。
14住-5 92	羽 釜 須恵器	覆 土 %	口(16.6)	砂粒多く含。良好。灰黒色。	胴上部に最大径を持ち口縁部は大きく内彎する。	口縁部横撫で。ロクロ整形。

14住-6 93	砥 石	覆 土	長 10.9 厚 5.9	4面使用。		
14住-7 93	砥 石	覆 土 ほぼ完形	長 8.9 巾 5.1 厚 2.2	4面使用。1面はU字状に磨滅。		
14住-8 94	甕 須恵器	覆 土 ½	胴 44.3	砂粒多く含。良好。灰色。	胴上位に最大径を持つ。	外面一平行叩き目文。内面一同心円叩き目文。
14住-9 95	壺 須恵器	覆 土 ¾	胴 22.0 底 12.8	砂粒多く含。やや悪い。 外一灰色。内一淡褐色。	低い台を持ち、胴部はやや丸みを持って立ち上がり、中位に最大径を有する。	ロクロ整形。
14住-10 96	錐 鉄 製	覆 土 ほぼ完形	縦 5.7 巾 4.2 吊手長2.6	本体は方柱状を呈する。銹化著しい。重量355g。		
14住-11 97	吊 手 鉄製品	覆 土 端部欠損	現存長8.0	螺旋状を呈す。銹化著しい。重量 21g。		
14住-12 98	鉄 斧	覆 土 ほぼ完形	長 9.5 巾 3.5 厚 2.4	袋部を持ち刃先は両刃。重量 155g。		
15住-1	坏 須恵器	覆 土 底部片	底 (8.8)	砂粒多く含。良好。灰色	底径大きい。	ロクロ整形。底部に回転系切痕。
15住-2	甕 土師器	覆 土 口縁部片	口(19.2)	砂粒多く含。良好。茶褐色。	口縁部は「く」の字に外反する。	口縁部横撫で。

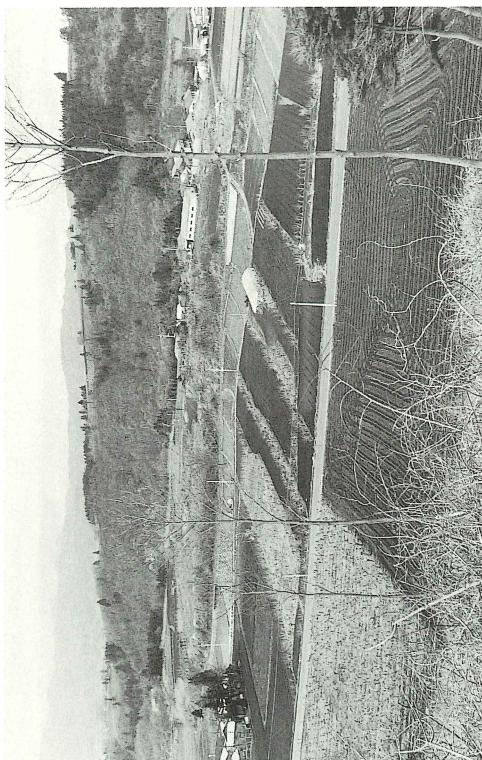
写真図版 1



田向 1号住居址遺物出土状況



田向 1号住居址全景

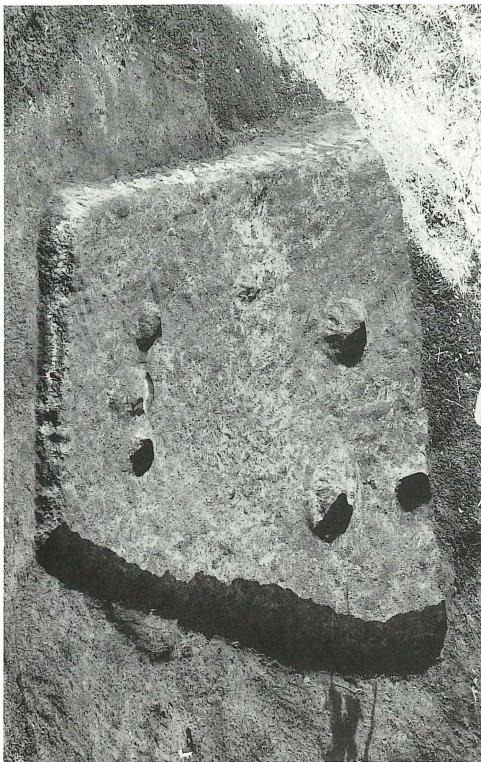


田向遺跡を東から望む

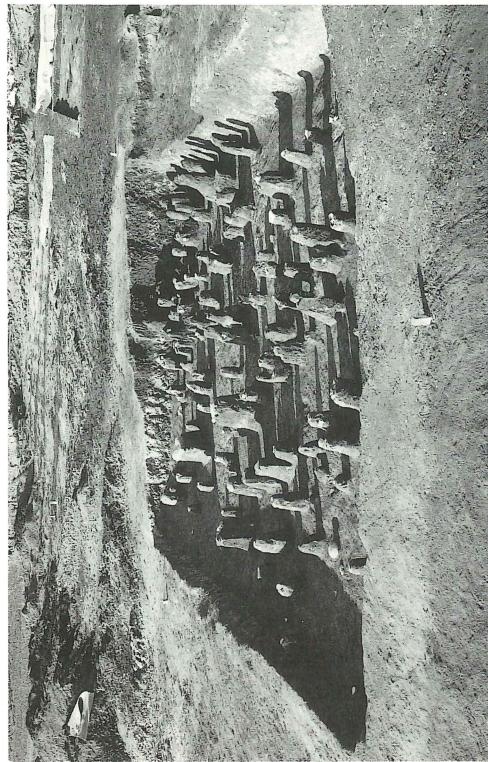


田向 1号住居址遺物出土状況

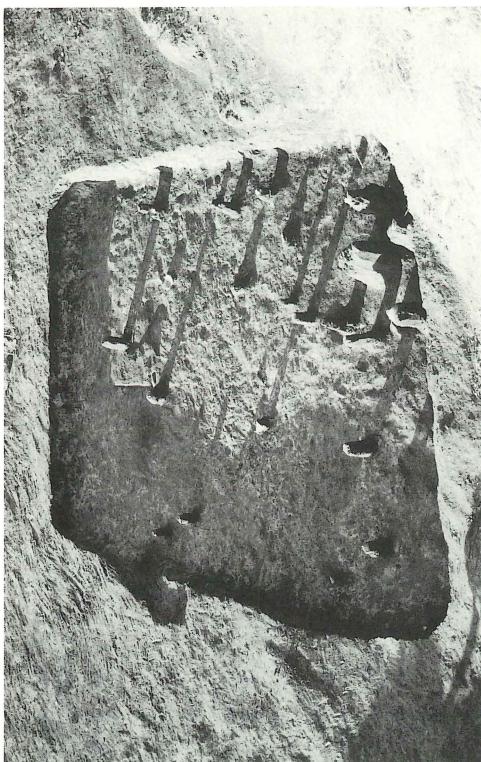
写真図版 2



田向13号住居址全景



田向16号住居址遺物出土状況



田向13号住居址遺物出土状況

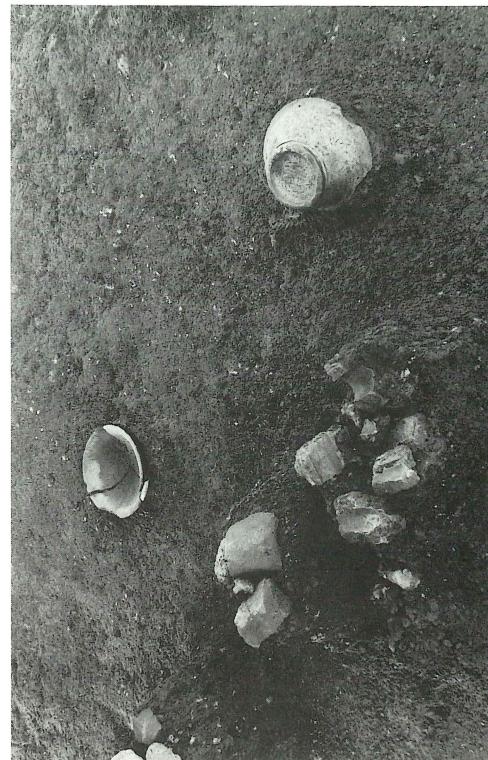


田向13号住居址炉

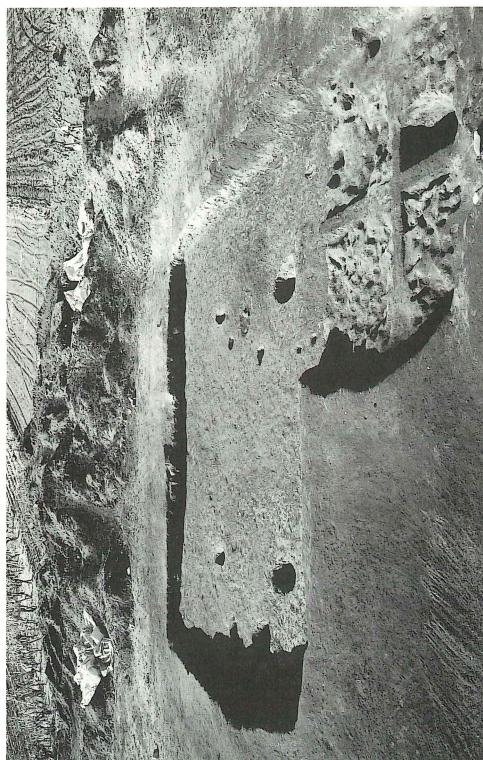
写真図版 3



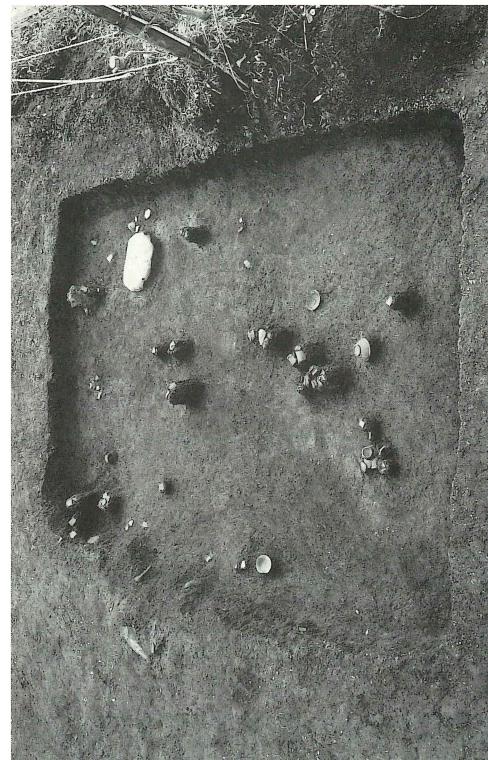
田向16号住居址



田向2号住居址遺物出土状況



田向16号住居址全景



田向2号住居址遺物出土状況

写真図版 4

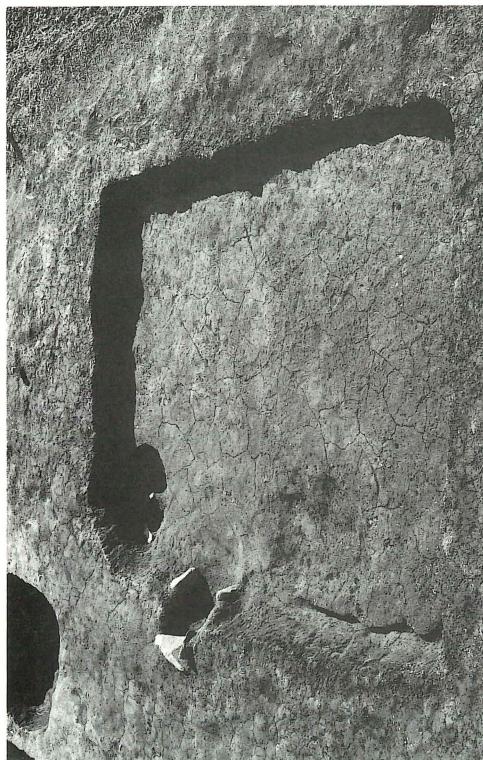


田向 2 号住居址全貌

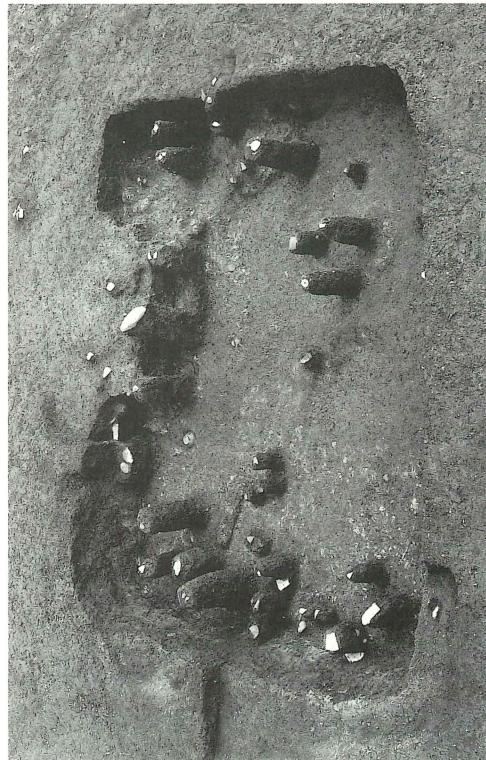


田向 2 号住居址出土物

田向 3 号住居址出土物



田向 3 号住居址全貌



田向 3 号住居址出土物

写真図版 5



田向 3 号住居址全景



田向 5 号住居址遺物出土状況



田向 3 号住居址全景



田向 4 号住居址全景

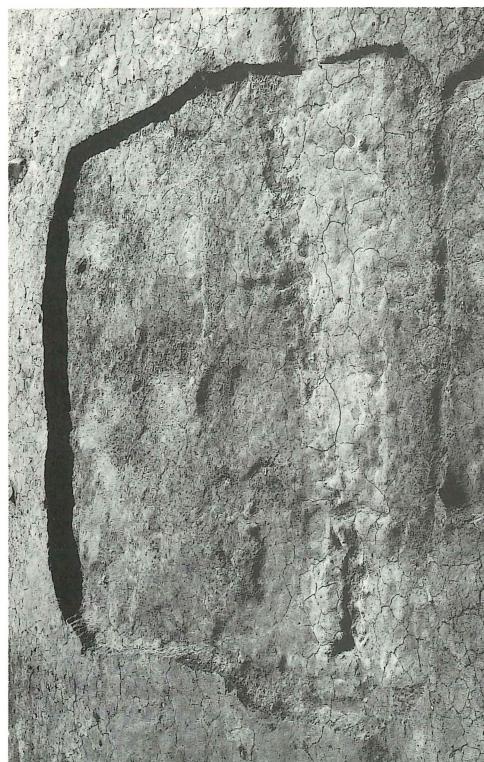
写真図版 6



田向 6 号住居址遺物出土状況



田向 6 号住居跡カマド

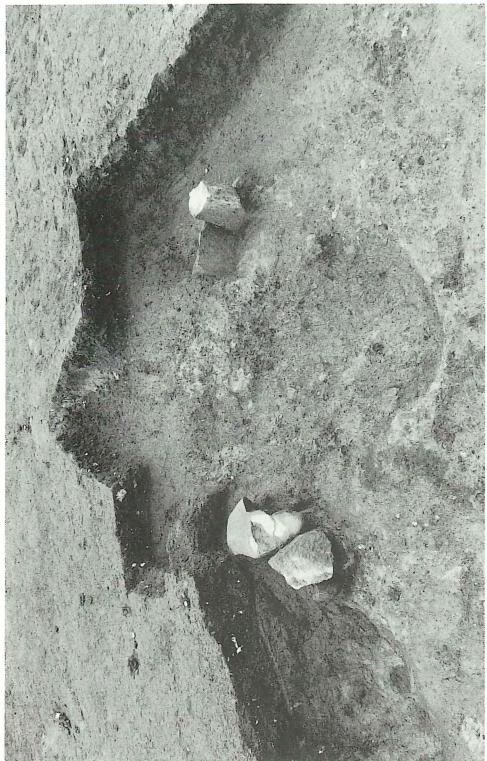


田向 6 号住居址全景



田向 6 号住居址全景

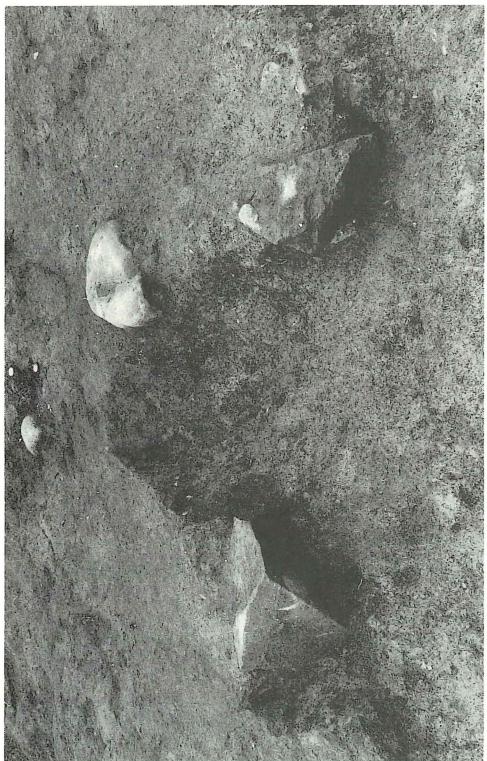
写真図版 7



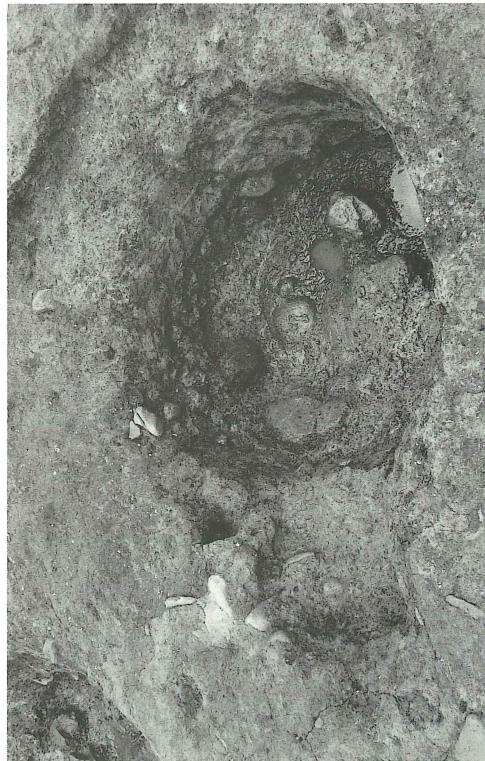
田向 6 号住居跡カマド



田向 7 号住居址全景

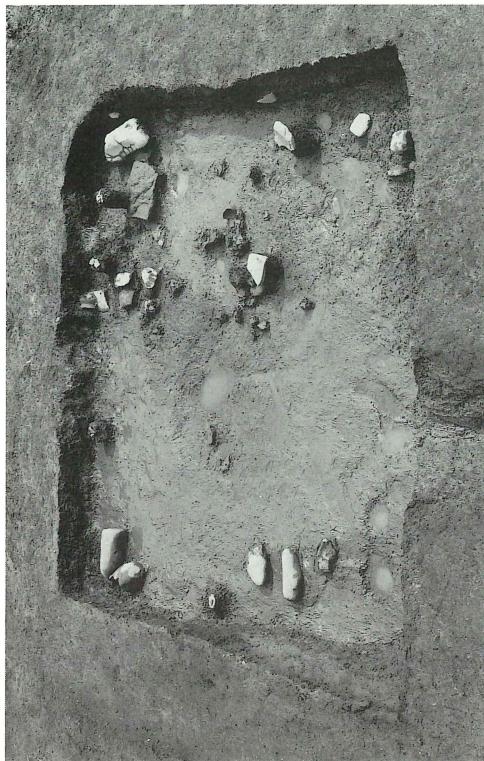


田向 6 号住居跡カマド



田向 6 号住居址内土壤

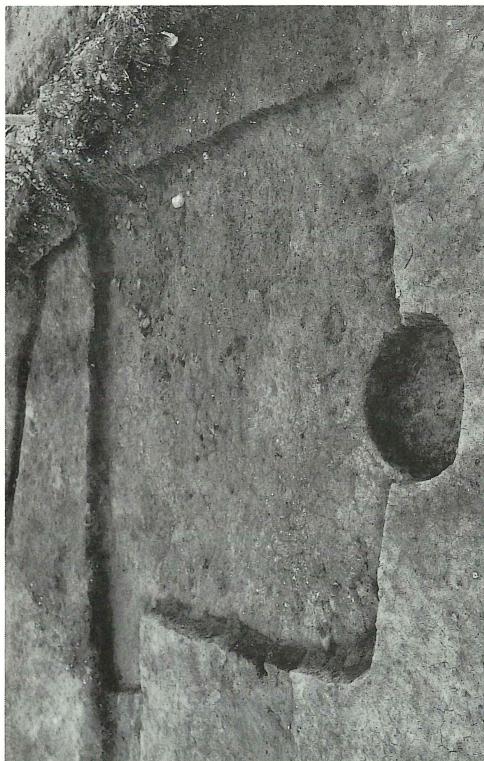
写真図版 8



田向 9 号住居址遺物出土状況



田向 9 号住居址カマド



田向 8 号住居址全景



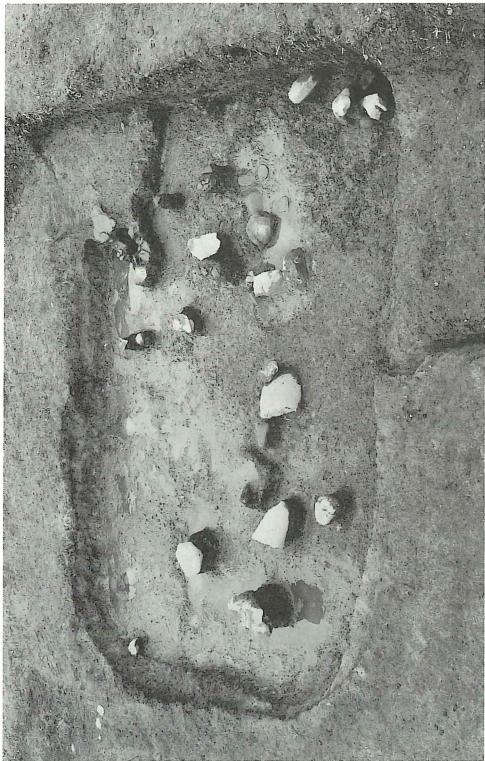
田向 9 号住居址全景



田向10号住居址全景



田向10号住居址内土壤



田向10号住居址遺物出土状況



田向10号住居址カマド

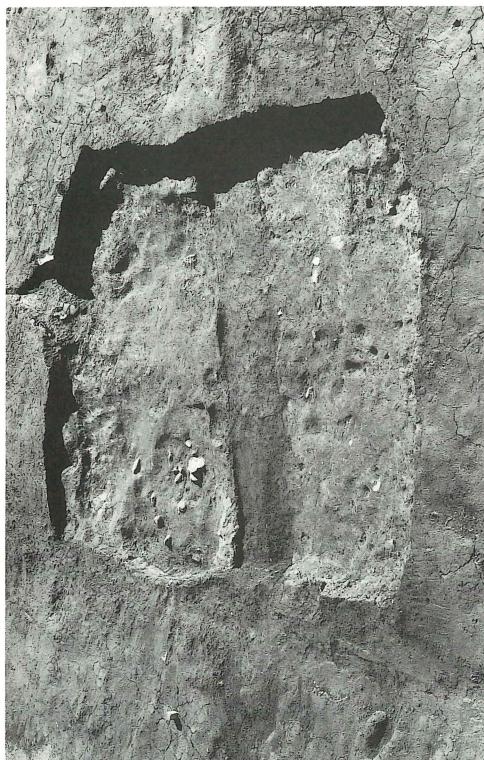
写真図版 10



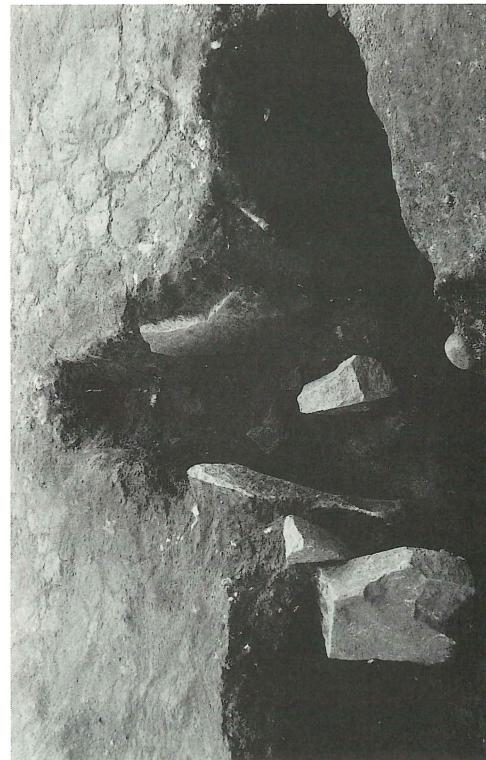
田向11号住居址力マド



田向14号住居址遺物出土状況



田向11号住居址全景



田向12号住居址力マド



田向 A 地区全景



田向 14号住居址全景



田向 15号住居址全景

写真図版 12



田向1住-1



田向1住-2



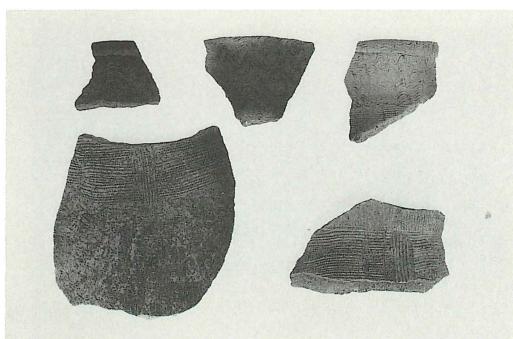
田向1住-3



田向13住-1



田向13住-2



田向13住



田向16住-2



田向16住-3

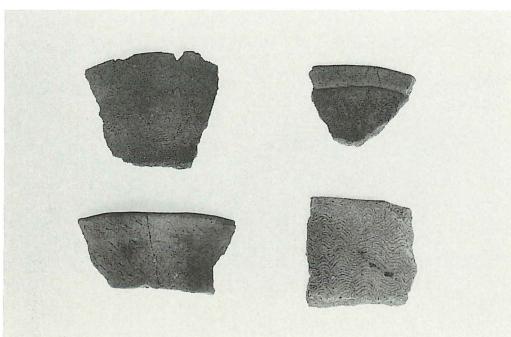
写真図版 13



田向16住-9



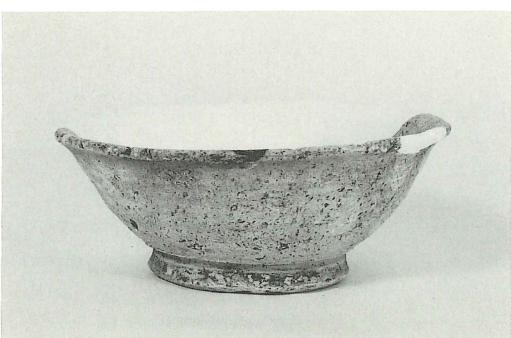
田向16住-11



田向16住



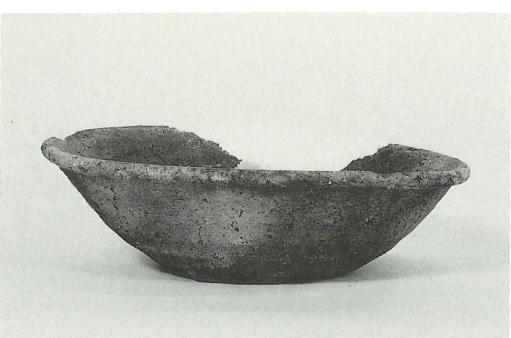
田向2住-1



田向2住-2



田向2住-3



田向2住-4



田向3住-1

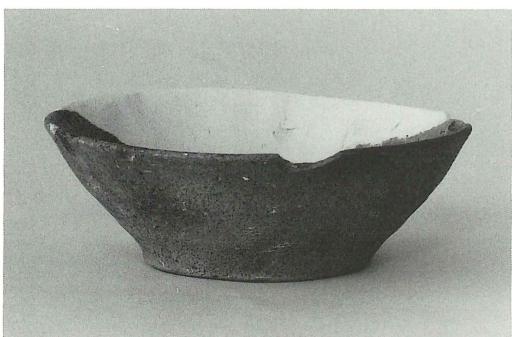
写真図版 14



田向 3 住 - 2



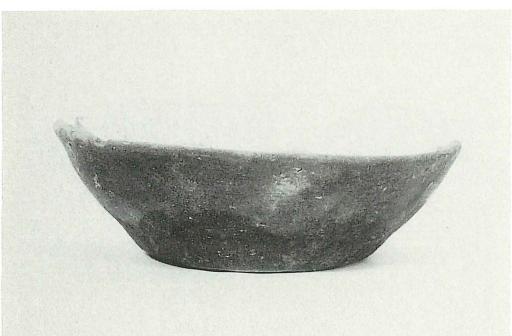
田向 3 住 - 3



田向 3 住 - 4



田向 3 住 - 5



田向 3 住 - 6



田向 3 住 - 10

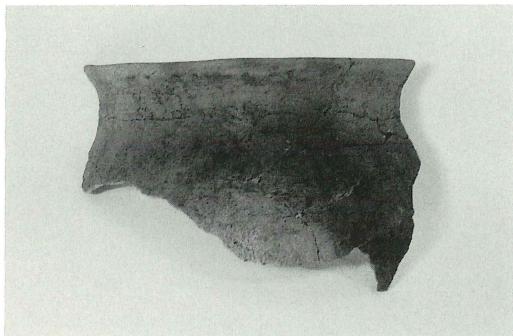


田向 3 住 - 11

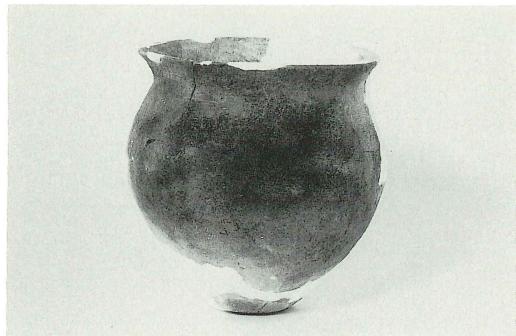


田向 3 住 - 12

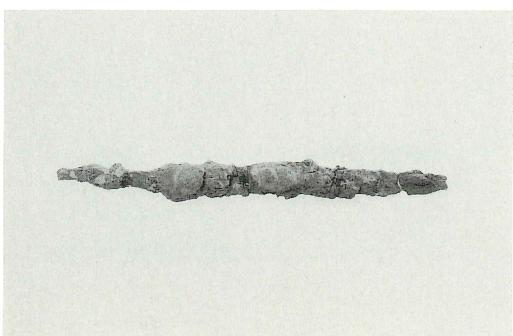
写真図版 15



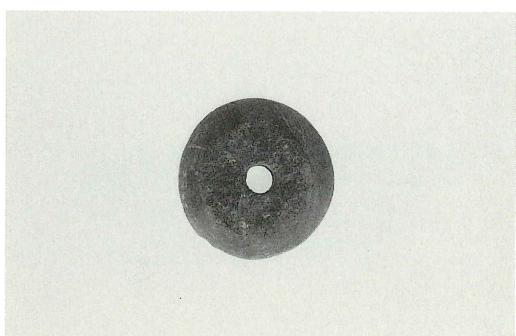
田向 3 住-19



田向 3 住-20



田向 3 住-21



田向 3 住-22



田向 5 住-1



田向 6 住-3



田向 9 住-2

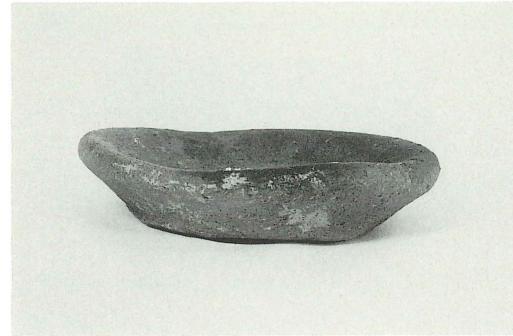


田向 9 住-3

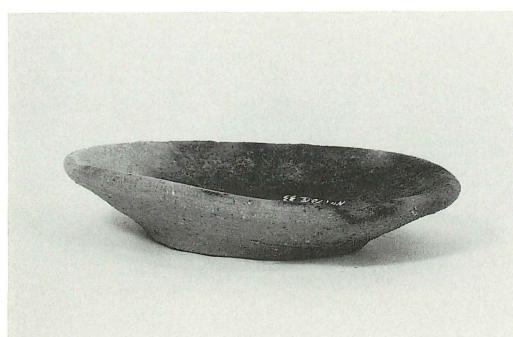
写真図版 16



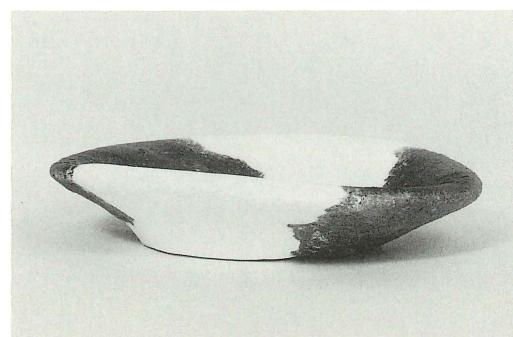
田向10住の1



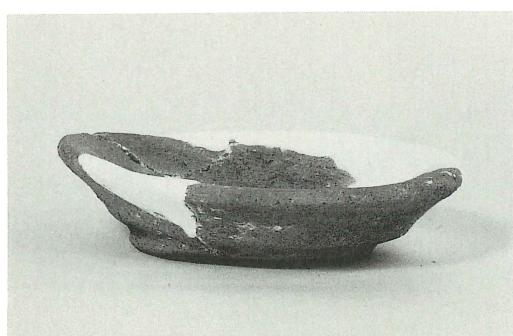
田向10住-2



田向10住-3



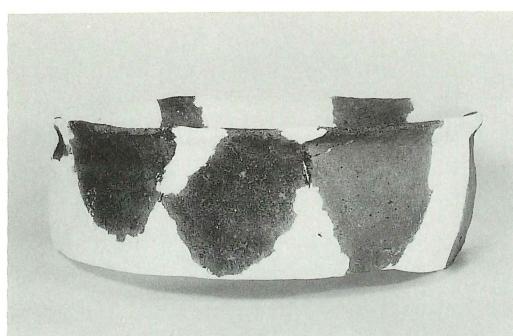
田向10住-4



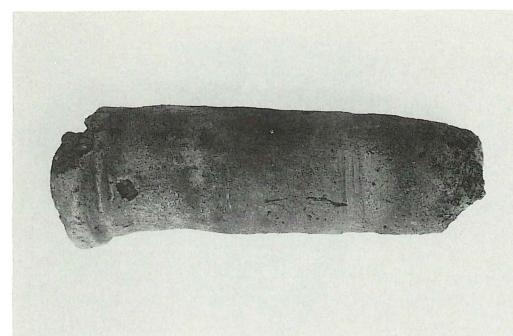
田向10住-6



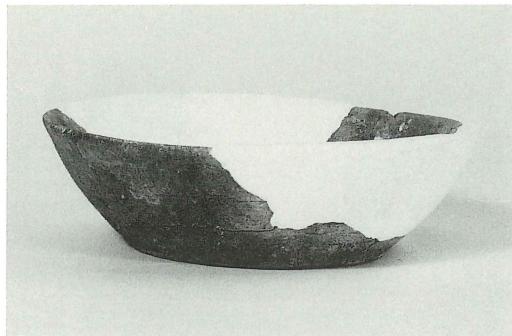
田向10住-8



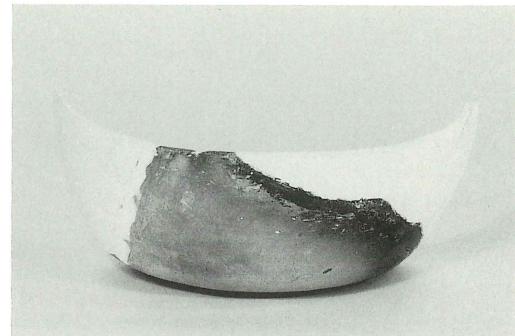
田向10住-9



田向10住-10



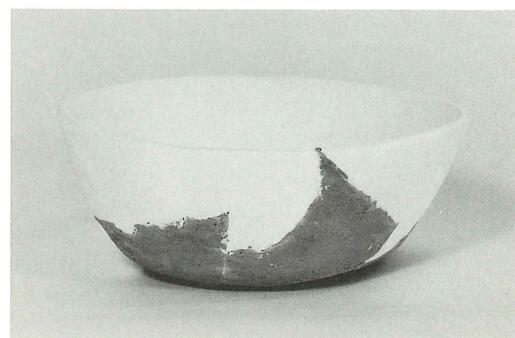
田向11住-1



田向11住-5



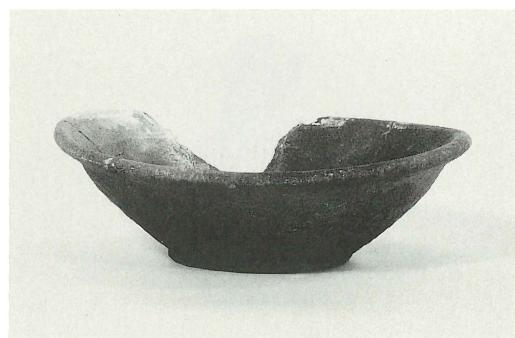
田向11住-6



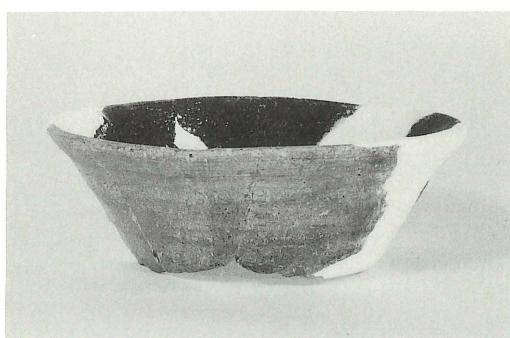
田向11住-7



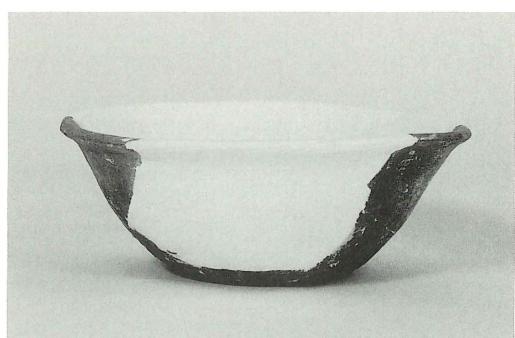
田向14住-8



田向14住-1



田向14住-2

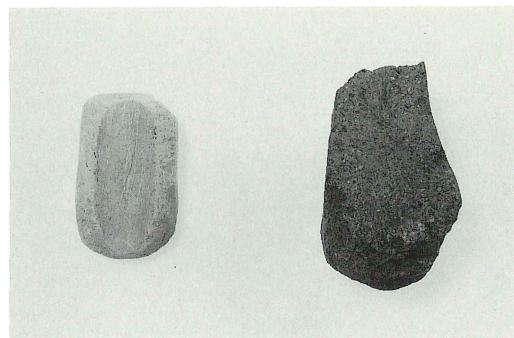


田向14住-3

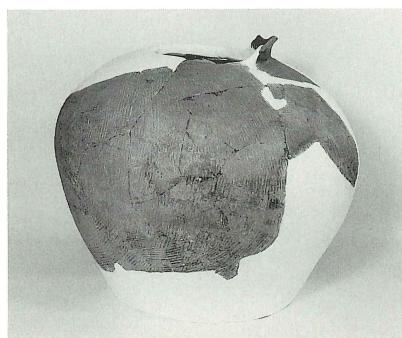
写真図版 18



田向14住-5



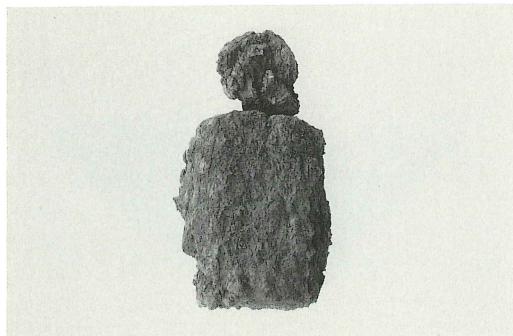
田向14住-6・7



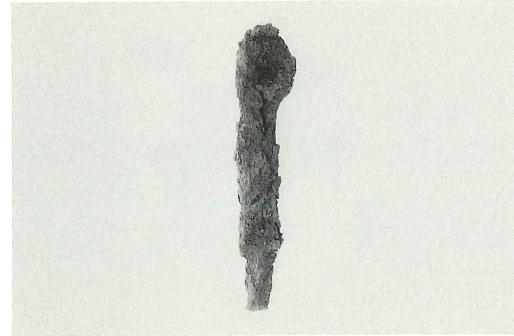
田向14住-8



田向14住-9



田向14住-10



田向14住-11



田向14住-12

奈良地区遺跡群 土地改良総合整備事業奈良地区に
(奈良田向遺跡) 係る埋蔵文化財発掘調査の概要

印刷 平成2年3月22日
発行 平成2年3月26日

編集・発行 沼田市教育委員会
沼田市西倉内町780
☎ (0278) 23-2111

印 刷 朝日印刷工業株式会社
前橋市元総社町67
☎ (0272) 51-1212

